

特集：ICT時代の国語教育



October 2023
大修館書店 120

〈インタビュー〉川添愛

AI時代、言葉といかに向き合うか 2

論考 ICTの今を知る

ICTは誰のもの？ —— 動画作成で主体的なアウトプットを—— 品田健 8

紙か、デジタルか 国語教育でのメディアの使い分けを考える 柴田博仁 12

障害のある生徒へのICTを活用した合理的配慮
—— 読書バリアフリーに向けた取り組みの必要性—— 中野泰志 16

授業案 ICTを活用する

ロイノートを活用した、みんなが書けるようになる実践 都筑航 20

効果のあるICT授業活用法7選 足立翔治 24

YouTubeを活用した「言語文化」の反転授業
—— 「あづま下り」を例に—— 梅澤真人 28

漢文 × ICT = 見抜く力 —— ChatGPTはウソをつく—— 酒井雅巳 32

データベースを活用し、自分の考えを深める 岡かなえ 36

〈学校訪問レポート〉
思いを伝えるために表現を磨く 授業者：神戸沙織・平松和旗 40

〈特別寄稿〉森鷗外は、赦せない小説家だろうか？ 平野啓一郎 48

大修館書店 学習辞典・国語便覧のご案内 中面カラーページ

● 連載	県立いまだき高校 国語科だより ... ICTをアイシてる	いのうえさきこ	46
	いま、高校生に読んでほしい本 ... ジェームズ・サーバー 著／村上春樹 訳 『世界で最後の花 絵のついた寓話』	内田 剛	49
	詩の教室へようこそ⑦	種まく人よ	和合亮一 50
	国語教師のための 古典文法指導講座⑫	物語にメリハリを	大倉 浩 54
		—— 紫式部にファンレターを書こう⑨	
	コトバのひきだし⑫	イエスでもノーでも「大丈夫！」って大丈夫？	関根健一 56
	青山あり！ 中国祠堂紀行⑨ ... 王羲之墓（浙江省嵊州市）	平井 徹	58

● コーナー	えつらん室	教科書の中の夏目漱石／はじめての漢詩作り入門	60
		無礼語辞典／知っておきたい！ 統計のおモテとウラ	
	国語のNews&Topics		62

〈インタビュー〉川添 愛



かわぞえ あい 言語学者・作家。一九七三年、長崎県生まれ。九州大学卒業、同大学院にて博士（文学）取得。専門は言語学、自然言語処理。主な著書に『自動人形の城』『ふだん使いの言語学』『言語学パトリ・トゥード』など。『国語表現』（国表旭）に「意図理解の難しさ」を掲載中。
 — 言語学者の視点から機械の言葉をとらえ、さまざまな文体やスタイルで発信されている川添愛先生に、AI時代の今、私たちは言葉とどう向き合っているのか、お話をうかがいました。
 （聞き手：編集部）

AI時代、言葉といかに向き合うか

ヒトの言葉、機械の言葉

—はじめに、川添先生は言語学とAIをご研究されていますが、そのきっかけをうかがえますか。

大学で漠然と人の心に関する学問がやりたいと思っていて、いろいろな研究室を訪問したんです。その中で、言語学の先生に「お天気下り坂」って言いますけど、「天気上り坂」って言わないのはどうしてですか」と質問したら、「目の付け所がよい、言語学に向いている」と言われ、嬉しくなってその研究室に入ることに決めました。

その後、大学院で言語学を研究していましたが、研究が行き詰まってしまった時に、自然言語処理の先生がアシスタントを募集していたんです。言語学という基礎的な学問ではうまくいかなかったけれど、応用的な分野で花開くんじやないかという気持ちで、新天地に出ていくことにしました。

自然言語処理はコンピュータで言語を扱う学問全般を指すんですが、当時は論文の中から必要な情報を素早く見つけ出すとか、文書を分類するとか、とにかくコンピュータで言葉を処理して便利なもの

AIはどのくらい言葉を紡ぐのか

—自然言語処理と言語学では言葉の見方が違うところですが、機械の言葉はヒトの言葉とどのくらい違うのでしょうか。

AIや自然言語処理の分野では現在、「機械学習」という技術で言葉を扱っています。例えば今年話題になったChatGPTでは、一人の人間が何千年かかっても読み切れないうほどの大量のテキストデータを機械に読み込ませ、その中から人間の言語がもっているパターンを発見させて、自然な会話をさせています。今のAIには身体がないので、文字や文章の情報だけが入ってきて、その中から言語のパターンを見つけて言葉を紡いでいるわけです。

一方、人間には身体があるので、生まれた子どもは、言葉を自分が見たり聞いたり触れたりするものと結びつけて理解します。その段階を経た上で、抽象的な概念を学んでいくんです。しかも、人間の子どもは、機械に比べたらものすごく少ない言語データから、「この言葉はこういうものだ」という仮説を見つけ出して、自分で検証し

作る学問、という感じでした。AI分野は当時は冬の時代で、今のように「自然言語処理はAIの一分野」という意識はあまり強くなかったように思います。

二〇一一年頃から、またAIの研究が盛り上がりつつきて、いろんなことを言われるようになりまして。「言葉を理解するなんて辞書さえ覚え込ませれば簡単でしょう」とか。言葉の意味というのは、辞書の記述や言葉のイメージだと単純化して考えられていたんだと思います。言葉を発するAIが出てくると、「支配されそうで怖い」などと、研究の発展に水を差すようなことも言われました。

自然言語処理の研究に触れるようになって、言語学とはだいぶ言葉の見方が違うというのに気づきました。はじめのうちはいかなど思っていたんです。でもそのうちに、それぞれ目的も違うし、それはそれでいいかなと思っていたんです。でもそのうちに、言語学で研究してきた言葉の見方というのが、ほとんど理解されていないんだと感じるようになってきました。そこでだんだんと言語学者としてのアイデンティティが芽生えてきたように思います。

ながら言葉を感じていく。

そういう意味でも、ヒトの言葉と機械の言葉は違っていると思います。

—最近、ChatGPTが注目されていますが、AIの話す言葉が人間に近づいてきているという感覚はありますか。

受け答えのしかたを見ると、かなり驚異的だと思っています。これまで私は、AIが人間の意図を理解することはすごく難しいと考えていたんです。人間の言葉はすごく曖昧だし、文字通りのことを言わないことも結構あるじゃないですか。例えば、小さい子どもが騒いでいて、親が「うるさい」と言う。「うるさい」という言葉だけを見ると、単に自分が感じたことを言葉にしているだけですが、実質的には、子どもたちに「静かにしなさい」と命令していることになったりする。

また、人間はうまく言葉の曖昧さを消しながら会話しているのですが、それは話し手と聞き手の間に共通の基盤がないとできないことなんです。例えば、「100キロ制限」という言葉があったときに、言葉だけだと重さなのか速さなのか、何の制限かわから



ない。でも、エレベーターに表示されていたら重さだとわかるし、高速道路だったら速さだとわかりますね。エレベーターや高速道路がどういう役割をしているのかわかっているということが前提になって、初めて「100キロ制限」という言葉が解釈できるようになる。

そういう感じで、言葉は、いろんな土台をもっていないと理解できないものなんです。AIは、身体も意識もないし、常識ももっていないので、人間の意図を理解するのはすごく難しいと思っていました。

ところが、今回のChatGPTは、まるで私たちの意図を見透かしたような受け答えをしてくれますね。人間に近づかないとできないかと思っていた意図の理解ができていると感じられるようになってきたことは、すごく驚いています。アラン・チューリングが提唱しているチューリングテストの考え方に従うならば、意味がわかっているにもかかわらず表面上人間と自然にやり取りができて今このChatGPTは、言葉を十分に理解している、ということになるでしょう。

あるでしょうし、商品として考えるなら、お金を出してでも読みたいと思う人がいれば成立する。なので、AIが書いたかどうかというよりも、その文学作品に対して人間が何を求めるのが、ポイントになるのではないのでしょうか。私は、作者の考えに思いを馳せて読むのが好きなので、どんなに面白くてもやっぱり人間が書いたものじゃないとあんまり楽しめないと思うんです。けれども、単に「話が面白ければいいや」という人たちからすると、AIの書いた文学作品も、普通の文学作品として受け入れられるんじゃないでしょうか。

— AIの文学作品は、設定や登場人物を指定して書いてもらうのでしょうか。

AIはお笑いを理解できるのか

— 著書『言語学パトリ・トワード』のなかで、AIはオウ倶楽部の「絶対に押すなよ」を理解できるかというお話がありました。これはまさに、土台の共有ができるかということでしょうか。

そうですね。熱湯風呂の淵にいる上島さんの言う「絶対に押すなよ」には、「押ししてほしい」という意図がありますが、AIはそれを理解できるのかというところですね。この間、「熱湯風呂の淵にいる上島電兵さんが、『絶対に押すなよ』と言いました。あなたは押しますか。」とChatGPTに聞いてみたんです。そうしたら、「熱湯風呂の淵にいる人を押すのは危険だからやめましょう。」と言われました（笑）。ただし、「絶対に押すなよ」に限った話をすれば、今後のデータの収集によっては理解できるようにもなってもおかしくないと思います。

— 芸さんのギャグやコントは難しいと思うのですが、例えばAIに「面白いことを言ってください」とお願いした場合はどうでしょうか。

私は試していないんですけど、「大喜利AI」というものがある、すごく面白い。私は詳しくないんですが、今のChatGPTだったら、「こういう人たちが出てきて、こういうプロットで書いてください」とみたいな感じで指示すれば、ある程度書いてくれるみたいです。面白いかどうかは別として、ただ、気をつけないと知らず知らずのうちに盗作になってしまふ可能性もあります。AIはネット上にある文章を学習しているので、著作権の問題はどうしても出てくるでしょう。また、すでに亡くなった作家の文章を学習させて、新しい話を書かせることも、データが十分にあればできるでしょう。私は自分の作品がそんなふうに生み出されたら嫌ですけどね。そこは、著者が守られるような仕組みがないといけないんじゃないでしょうか。

批判的に読む力の教材に

— 高等学校の国語科では、二〇二三年から新しい科目編成となりました。今の教科書をどうやっていかかですか。

私が国語の授業を受けていた頃とは、やっぱりだいぶ変わってるなと感じました。当時は読むことが中心で、自分で書いて

ことを言ってくれるらしいです。どんなふうデザインしているのかわからないのですが、「人間がこういうのを面白がる」というデータがあったら、そこから私たちが気づいていない何らかのパターンを取り出して、それを利用して面白いことを言うAIを作ることは可能だと思います。ただし、それをAI自体が面白いと思っているわけではありません。

ChatGPTからすると、私たちの言葉は、模様みたいなものだと思うんですね。言葉のように、裏に意味がくっついていられるのも、模様のようにパターンだけがあっても見た目以上の意味をもたないものも、ChatGPTからするとたぶん全く変わらぬ。AI自身がその模様や言葉を面白いと感じているわけではないんです。

AIの文学を考える

— AIが書いた文学作品も話題になりました。「面白い」という意識をもたないAIによって書かれた作品について、どう思われますか。

エンターテイメントとして受け取るなら、それが面白いと思う人がいれば意味があり、それが面白く思われることにはあまりなかったり発表したりすることはあまりなかったりで、その頃に比べるとだいぶバランスがよくなっていると思います。

そこにAIが入ってくることに、いろいろな意見があるでしょうが、私は「AIありき」の教育はあんまりいい手ではないと考えています。というのも、AIは今まではやされていますけど、今後どうなるかわからないんですよ。質がすごく落ちる可能性もゼロとは言えません。

実際、今年の七月に発表された論文では、三月と六月のChatGPTの性能を比較したところ、かなりの変動があり、一部の課題で正答率が大幅に落ちたことが指摘されました。

ChatGPTの特徴として、人間がフィードバックをして、ある程度回答をコントロールするということがあります。元々ChatGPTの前身であったGPT-3には、差別的な発言をしてしまうなどといった問題があって、そのままでは使えなかったのですが、人間のフィードバックで対処してようやく使えるようになったんです。しかしこれは裏を返せば、フィードバックのやり

方次第で短期的に質が変わる、流動的な性質をもっているということなんです。

また、ChatGPTを含む大規模言語モデルの宿命として、新しいデータを入れ続けると、新しい情報をふまえた回答ができない、ということがあります。しかし、今後は新しいデータの中に、AIが生成したデータが入ってきてしまう可能性もあります。そのようなデータで学習したAIが常に安定した高い質で動くかどうかからなるところがあるので、AIを絶対に信頼できるものとして教育を進めると、まずいことが出てくるかもしれません。

——同じ質問をしても違う回答が出るのは、流動性があるからですね。

いつも同じ回答だと機械っぽく見えるので、ランダムに返答を少しずつ変えるような操作をしているようです。ただ、ChatGPTは、企業が提供しているものなので、仕組みがユーザー側からわからないんですよね。だからそういう不安定なものだということ、ふまえておいたほうがいいでしょう。

この間、とある大学で講演をしたときに、最初にAIのサンプルを見せようと思っ

う人もいます。そういう意味でも、言葉のいろんな側面を多様な方法で提示できることは、素晴らしいことではないでしょうか。

物語を創る論理的思考

——先生は、物語や対話文など、さまざまな形式でご執筆されていますが、執筆形式の使い分けについて意識されていることがありますか。

題材によって、「こういう料理のしかたをしたらいんじゃないか」という気持ちで書いています。人が手っ取り早く知りたいと思っていること——例えば、AIと人間の言葉の違いといったことについては、説明文として書く。一方、計算理論とか教諭論とか、専門性の高いことに興味をもってもらうとする場合は、物語の形式がいいかな、という感じです。題材とニーズ、それから自分が楽しく書けるかを考えた末に、形式が大体決まってきました。

——国語では「書くこと」の指導の中に創作活動が盛り込まれている科目もあります。創作に取り組むことについて、どのようにお考えですか。

物語を作るって、かなりロジカルじゃないとできないですよ。自分が創った世界

て、ChatGPTに「その大学について教えてください」と聞いたら、すらすら答えてくれたんです。でも、目立たないところに間違いや嘘が入っていたんですよ。「一八九九年に誰が何をした」と答えているけれど、そんな事実はない。わかる人がチェックしないと気づかないような間違いが紛れていることがあるので、かなり注意が必要だと思います。

AIは絶対に正しいと思いついてしまわないように、本当に正しいかを検証する活動をしていくのも大事なのではないですか。ChatGPTのようなAIを教育に使うときに期待できるのは、批判的にツツコミを入れながら読む力だと思います。

言葉の曖昧さを知る

——言語学を研究されたことで、身についた言葉の力はありますか。

私個人は言語学を学んだおかげで国語力がついたと感じています。言葉の曖昧さに対する感覚が身についたかな、と。人間って、最初に頭に思いついた解釈が正解だと思いついてしまうことが多いんです。SN

の中にキャラクターを置いて、その人たちの会話や行動を自然な形にすることは、論理的に考えないとできません。そういうことを授業の中でやってみることは、いいことだと思います。

書き手の立場になってみて、物語を書くには本当に論理的で冷徹な思考が必要だと感じています。読み手が心を惹きつけられるということは、読み手自身が物語の展開を予想して仮説を立て、それが正しいかどうかを知りたくて先を読みたくなるということでしょう。読み手にいかに仮説を立てさせるか、つまりいかに理論構築させるかというのがすごく重要です。そういう意味でも、書き手は、読み手がどんなふうに考えるかまで先回りして考えないといけないですよ。そこには非常に複雑な思考があって、文学作品と真剣に向き合えば、そういうメカニズムが学べるはずですよ。物語を創作するということは、その人の中で文学と論理をつなぐ作業になるかもしれないですね。

S上でも、言葉のちよつとした解釈の違いで、どちらが正しいか言い争っていることがよくありますよね。でも、言語学者から見ると、どっちの解釈もあるよね、ということが多い。ぱつと聞いて自分が受け取った印象とか解釈とかを一旦心に保留して、「本当にそうかな」と考えてみる癖は、言語学を学ぶことで身についたかなと思います。

——読む以外の活動とのバランスがよくなったというお話がありました。一方で、世間では話す・聞く・書くの実用的な活動に走りすぎることも懸念されています。

難しいんですけど、いろんな活動があること自体は悪いことじゃないと思うんですよね。バラエティーのあるものを読んだり、自分で書いたり、表現したりする機会があるということ、悪いことじゃない。言葉のどういう側面に魅力を感じて興味をもつかは、人それぞれですから、いろんなチャンスが与えられるのは、すごくいいことだと思います。

私は物語を読むのが大好きですが、世の中には物語が苦手で、説明文の方が頭に入ってきてやすいとか歌や詩なら読めるとい

言葉を使う主体は自分自身

——最後に、これからのAI時代に、私たちはどのように言葉と向き合っていけばよいのでしょうか。

今の高校生や先生方は本当に大変な時代を生きていらつしやると思います。AIは便利なものですが、問題もたくさん出てくるでしょう。でも、基本はやっぱり、言葉を使う主体としての自分をできるだけ手放さないこと。自分で書いたり、読んだり、解釈したりする力を、AIに明け渡してしまわないということが大切です。AIが常に質の高い答えを出してくれるとも限りませんし、あくまで言葉を生み出して、その言葉に責任をもつのは自分自身だということ、忘れないでほしいと思います。

——ありがとうございました。



2023年8月2日
大修館書店本社にて



ICTは誰のもの？

— 動画作成で主体的なアウトプットを —

しなだ たけし
品田 健



▲解説動画あり

聖徳学園中学・高等学校 Program Coordinator、IT Teachers Academy 理事、一般社団法人 Yokohaku Education 代表理事。ICTを活用した教育の推進を行う。中学校・高等学校国語科のち、現在は高等学校情報科を担当。

■教員が使いこなせなくてもいい

「国語の授業にどうICTを取り入れるか」悩まれている先生方も多いと思います。極端なことを言えば、教員が生徒に教えられるほど使いこなせる必要はありません。「このツール（アプリやサービス）を使うとこんなことができる」ということがわかっているだけで大丈夫です。

そもそも教員が使いこなせるようになってから生徒にも使わせようなどと考えていたら、いつまでも授業で生徒が使えるようにはなりません。ICTは教員が使えて当たり前という前提のものではありません。そして、明らかに生徒のほうが使いこなせるツールです。教科の専門分野とは違うのです。教員が生徒に何から何まで教えるようと考えていいのではないのでしょうか。

そんなことでは生徒は使えるようにならないと思われるかもしれませんが、教員が教えなくても生徒は使えるようになります。様々なアプリやサービスがありますが、

てみんなでシェアしよう」だったらどうでしょうか。生徒は動画が大好きです。見る目も肥えています。いかにクラスメイトに面白いと思ってもらえる動画を作るか、ツールの使い方も学ばせようし、こういう表現をしたという思いがあればもっと調べて工夫もするでしょう。30秒で説明するためにその助動詞についても理解を深めるでしょうし、相手に上手く伝えるためにどんな説明をすればいいのか推敲を重ねると思います。

このようにICTは、アウトプットするために使うことを意味があります。興味関心を持ったことをアウトプットしたい、そのために主体的に学んでインプットするようにするのが理想です。各自が主体的に学ぶようになれば、個別最適化された学びも自然に求められます。

■解説動画を作ろう

さて、とはいえ、教員がまったくICTを使えないよりは使えたほうがいいでしょう。ただ、教員は真面目なので、例えばアプリの操作をすべて覚えようと考えていません。情報科の教員ならばその必要があるかもしれませんが。しかし国語科の教員には不要です。生徒にアウトプットしてもらいたいものを自分が実際に作れるようにするだけで十分です。アプリの操作について完全に

Web上には使い方の解説や実践事例が豊富にあります。教員がそれらを見て学んで使えるようになるのが理想ですが、「こんなツールがあつてこんなことができるみたい。使い方はここにあるから使ってみようか」でスタートしていいと思います。

■学んだことをアウトプットしてこそ意味がある

そんなことを言っても生徒がツールの使い方を学ぼうと思わなければ意味がない！はい、その通りです。私たち教員がこだわるべきはそこなのです。「このツールを使ってアウトプットしたいと思えるような課題を設定するか」がすべてです。「ワープロを使って助動詞の活用表を作りましょう」という課題を出したとします。生徒の何人が自らワープロの使い方を学ぼうとするでしょうか。助動詞について理解を深めようとするでしょうか。では「この助動詞について30秒で説明する動画を作っ

理解しておく必要はないのです。生徒と同じ経験はしておくといいでしょう。「このツールでこんなものが作れる」と理解しているだけでもいいのですが、「なるほど、こうするとこんなものが作れるのだな」と実際にわかっているほうが授業を進めやすいですね。

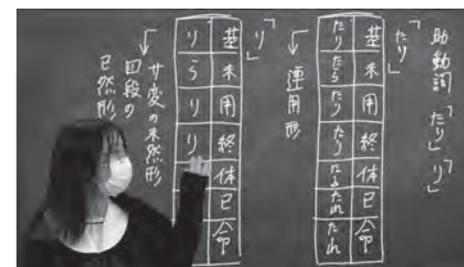
何を作ってみるか、まずは動画一択です。何かを表現したいと思ったときに、かつてはテキストを使っていた。生徒にとっては動画を使った表現が現在では最も身近なメディアです。このメディアを授業に使わない手はないと思います。

動画なんてコロナ禍で対面授業ができないときに解説動画を作っただけで今は不要でしょうか。いいえ、解説動画があると実は教員も生徒も便利です。しかし、わざわざ動画を撮影するのは面倒、それもわかります。

私は授業用のスライドを作ったら、授業の前に動画を撮影してしまっています。AppleのKeynoteというプレゼンテーションアプリを使ってスライドを作成しています。このアプリはMacBookやiPadのカメラの映像をスライドに合成するライブカメラという機能があります。この機能を使って、スライドの確認をしながら、カメラに向かって授業のリハーサルのもりで撮影をしてみたいです。前後の要らないところを削除する程度で解



▲ライブカメラ機能



▲生徒が作成した動画

説動画は完成です。

解説動画のために何か新たに用意するとなると面倒ですが、これなら授業用のスライドだけあればいいのです。そんな完成度の高くない動画でもいいのか。私たちはYouTubeではありません。字幕もBGMも不要です（もちろん入れる余裕があれば入れたほうが喜ばれます）。

■学んだ内容を動画で表現する（タイトル下のQRコード参照）
生徒もiPadを持ってこれば同じようにKeynoteだけ

■主体的なインプット

「アウトプットにはインプットが必要」これは確かなことです。ではそのインプットはどうあるべきなのか。

先生に教えられたインプットをベースにしたアウトプットのほとんどが先生側の想定範囲内です。先生が教えたことが100ならば、アウトプットとして求められるのも100です。生徒も100で十分だと思ってしまう。

でも自分が学んだインプットであればどうでしょうか。解説動画を作成するためにある事項を理解しないといけない。そのために主体的に学んでいったインプットは生徒それぞれです。

もちろん、想定に遥かに及ばない生徒もいるでしょうが、中には教員の想定を超えたインプットを行い、さらにその成果を想像を超えるアウトプットしてくれる生徒も出てきます。教員の想定を超える創造性を発揮した作品を見たことはありませんか。そんな生徒が育つ環境や授業を提供するのが私たちの役目なのではないでしょうか。

■自分で学べるという選択肢

この他にも、私は情報科の授業で期末考査の模擬問題を作成するという課題も行っていきます。教科や科目は生

で動画が作成できます。例えば「次の定期考査までの範囲で30秒の解説動画を作成しよう」という課題はいかがでしょうか。私は現在情報科の授業を担当しているため、作成する解説動画はどの教科・科目でもいいとしています。国語科の授業であれば、「文法について一つ取り上げて解説動画を作ろう」でもいいでしょう。

生徒はまず、その内容を説明できるようにするために理解を深めようとしています。先生に覚えると言われたから覚えるのではなく、自分が魅力的な動画を作成するために必要だから自発的に内容を理解しようとするのです。

さらに説明に必要な板書（動画の背景）についても、どう表現したら相手にわかりやすく伝えることができるか考えます。ふだんは板書をそのままノートに転記しているような生徒も自分で板書を考えなければなりません。そして制限された時間内で説明するための原稿も用意しなければなりません。完成したら練習を繰り返します。みんなの前で一回発表して終わり、であれば一発勝負だと考えて練習しない生徒も、動画が残って何度でも見られてしまうとなれば恥ずかしくないものを作りたいと考えるようになります。

徒が自由に選び、まだ授業で扱っていない単元も含めて、自分で学び、理解を深め、重要な事項は何かかを整理し、それを問う問題を考えます。

模擬問題を作成する過程で、テキストの編集やオブジェクトの追加方法などの基本的な操作を自然に学べてしまします。授業では基本的な操作を一通り説明はしますが、それを使ってみたいタイミングは異なるので、生徒が自発的に見られるように解説動画や説明に使ったスライドを授業サイトで提供しています。（ほら、解説動画が役に立つでしょう。）

解説動画も模擬定期考査問題も、アプリの使い方を学びつつ、自分にとって必要なことを自分で主体的に学ぶ経験をしてもらうことがねらいです。学校で授業を通して先生から学ぶというのが実は最も効率的で「楽」なことだということを生徒は実感しつつ、でも自分で学ぶこともできるという選択肢を持つことができます。

■ICTは誰のもの

ICTは先生だけのものではありません。生徒が使うためのものです。ICTを授業に取り入れるというのは生徒が使ってこそ実現することです。そのために動画を使った授業を実践することは有効です。



紙か、デジタルか 国語教育でのメディアの使い分けを考える

しばたひろひと
柴田博仁

群馬大学情報学部教授。専門は、ユーザインタフェースと認知科学。ICTを用いた新たな読み書きの環境構築を目指す。著書に『ペーパーレス時代の紙の価値を知る』（共著）など。

■はじめに

書籍の内容（コンテンツ）が同じであれば、紙で読んでもデジタルで読んでも、読みの効率や質は変わらないのだろうか。答えはNOだ。大工の仕事が道具次第であるように、読む際の道具であるコンテンツの入れ物（メディア）が変わると、読みの効率や質は変化し、人の読み方も変わる。

それでは、紙とデジタルのどちらを選択したらよいのだろうか。結論から言えば、それは読む環境、文章の種類、読む目的や読み方に依存する。決して、全て紙、全てデジタル、などという単純な話ではない。

本稿では、認知心理学的な実験結果をもとに、メディアが読みに与える影響を科学的に考察する。そして、国語教育での紙とデジタルの使い分けの指針を考える。

■心理学的な読みの実験

私の専門はコンピュータ科学の一分野であるユーザインタフェースデザインである。その私が、一〇年以上にわたって紙とデジタル環境での読み書きを比較する認知実験を行ってきた「注1」。目的は、読み書きを効果的に支援する紙の魅力を解き明かし、その知見をデジタル環境の開発に生かすことである。

研究を進めるうちに、面白い事実がわかってきた。手を使わずに文書を目で見るだけなら、紙で読んでも、デジタル環境で読んでも、読みのスピードや理解度に大きな違いはない。

しかし、読む行為は目だけでなされるのではない。業務や学習の読みでは特に、読み手は複数の資料を並べて比較したり、ページをばらばらめくったり、異なるページ間を行き来したり、テキストを指やペンでなぞったり、書き込んだりする（「文書インタラクション」として総

称する）。こうした手を使う頻度が多い読みでは、デジタル環境に対する紙の優位性が顕著に示される傾向にあるのだ。

下表は、私がこれまでに行ってきた紙とデジタル環境での読みの比較実験の結果をまとめたものである。たとえば、複数の文書を相互に参照して記述内容の矛盾点を見つける課題では、紙での作業はPCでの作業よりも25・5%速く、誤りの検出率も10・7%高かった。デジタル環境では、複数の文書を並べたり、前面化する文書を切り替えたりするのに負荷がかかり、これにより文書内容の比較がおろそかになったのだ。

また、マニュアルから答えを探す課題では、紙条件はPC条件よりも36・5%速く、タブレット条件よりも38・6%速かった。詳細な目次を持つマニュアルの場合、デジタル環境では目次から各ページにリンクがあると格段に速く情報を探せると思われるが、紙条件はこれと同程度であった。紙の書籍では、読み手はページに指を挟むことで、柔軟にページ間を行き来していたためであった。

紙メディアは手を使う読みでこそ真価を発揮することがわかる。手を使った操作は思考を阻害しないためだ。逆に言えば、デジタル環境では文書インタラクション

●紙とデジタル環境での読みの比較実験結果

読みの種類	実験課題	頻繁な行為	結果
相互参照の読み	1. 複数の文書での矛盾点を探す	文書を移動する、並べる、重ねる	・紙はPCより25.5%速い。 エラー検出率は10.7%高い。
	2. 注釈付文書の読み	ページ間に行き来	・紙はPCより6.8%速い。
答えを探す読み	3. テキストから答えを探す	特定のページにジャンプ、読みながらめくる	・紙はPCより36.5%、 タブレットより38.6%速い。
	4. 写真集から写真を探す	ページをばらばらめくる	・紙はPCより20.9%、 タブレットより30.2%速い。
議論のための読み	5. 2人で旅行プランを立てる	情報を探す、ページ間を行き来	・紙はタブレットより8.0%、 PCより9.6%発話量が多い。 ・紙はタブレットより93.8%、 PCより124.3%アイコンタクトが多い。
校正・編集の読み	6. 意味的な誤りを探す	なぞる、ポインティングする	・紙はタブレットより17.2% エラー検出率が高い。

ンがしにくい。そして、操作の際に若干だが思考の中断が生じる。若干だから、簡単な文書を読んだり、情報を受け取ったりするだけの気軽な読みでは、大きな問題にはならない。しかし、深い読みが求められる局面で思考の中断が頻繁に生じると、読み全体のパフォーマンスの劣化につながる。

多くの人は、紙は読みやすいという。そして、その理由は目にやさしいからだ。しかし、私の考えは違う。紙は「見やすい」のではなく「扱いやすい」のだ。紙の利点を強調するならば、紙は「表示メディア」というより「操作メディア」だ。

■デジタル読書の体験

かつて、私自身を被験者にした、こんな実験を行ったことがある。一年以上にわたって、紙の本を一切読まないで、デジタル環境で読書した〔注2〕(8・4章)。実生活でデジタル読書を自分に強要し続けることで、デジタル読書の利点や問題点を切実なものとして実感できると考えたためだ。そして、そこでの体験を取り逃がすことがないように、実験期間中、私はそこで起こったこと、感じたことを日誌に書き留めた。

デジタル読書にさまざまな利点も感じたが、深い読み

べきか、デジタル環境を使うべきかの判断は、大人よりも子どもにおいて重要な問題となるようだ。

さらに、子どもの場合には特に、デジタル環境に集中を妨げる要因があることも指摘したい。メニュー、アイコン、カーソルなどは注意を引きつけ、集中の阻害要因になる。アラート、メッセージ着信や広告のポップアップなどは、より騒がしく注意を引きつける。

加えて、デジタル環境は複数の作業を同時に行うマルチタスク(ながら作業)を誘発する。インターネット検索、メール、SNS、ゲームなどの誘因性のあるソフトウェアが多数存在し、それらへの切り替えが容易なためだ。読解が困難な文章を読むときなど、苦痛から逃れるための手段として、他のアプリケーションに手を伸ばしてしまうこともあるだろう。

■紙とデジタルの使い分け

これまで述べてきたように、デジタル環境には学習効果を阻害する要因がある。さらには、集中した読みを阻害する要因もある。

こうした点をふまえ、児童・生徒に集中して深い読みをさせたいのであれば、そして高い学習効果を得たいのであれば、私は授業での紙メディアの使用を検討すべき

をするという意味では問題を感じたのも事実だ。自分の本どこにいいのか自信が持てなかったり、読んだ本の著者やタイトルを覚えていなかったり、どの主張が誰のものであったのか混乱したことがたびたびあった。

この体験を通して、読書は身体行為であること、本はかたまりを意識して読むべきことを実感した。人はペー지를手でめくることで話の進み具合を理解し、本を手に持つことでかたまりの違いを認識しているのではないかと思えた。

■子どもの読み書き

これまで紹介した実験での被験者は、いずれも二〇歳以上の大人であった。そして、多くの場合、小説や解説文を読む線形の読みでは、メディアによって読みのパフォーマンスに大きな違いは見られなかった。

しかし、子どもを対象にした場合には話は違ってくる。子どもが小説や解説文をPC、タブレット、電子書籍端末などのデジタル環境で読むと、紙で読む場合に比べて時間が多くかかったり、理解度が低下したりという実験が多数報告されている〔注2〕(8・5章)。読みの能力が確立されていない子どもでは、メディアの違いが読みのパフォーマンスに敏感に影響するようだ。学習で紙を使う

だと思ふ。特に、読み書きの能力を向上させることを狙いとする国語の授業において、適切なメディアの選択はより重要な問題となるだろう。

ただし、全ての授業で紙を使用すべきだとは考えていない。実際のところは、個々の授業での主目的に応じて、現場の先生が都度、メディアを選択すべきだろう。

デジタル環境の利点を考えてみる。国語の授業の文脈で言えば、テキストの拡大・縮小、読み上げ、辞書機能やWEB検索の利用、動画コンテンツの閲覧、漢字の書き取りやテストの自動化などである。情報共有の文脈では、資料の配布と回収、意見集約の簡略化、オンライン講義への対応、SNSの利用などがあげられる。

デジタル技術のこうした利便性と、本稿で述べてきたデジタル技術が児童の学習効果にもたらす負の側面とのトレードオフを考慮したうえで、個々の授業ごとに紙とデジタル環境とを適切に選択していくべきなのだと思う。

〔注1〕柴田博仁、大村賢悟『ペーパーレス時代の紙の価値を知る——読み書きメディアの認知科学』産業能率大学出版部、二〇一八。

〔注2〕Shibata, H. and Omura, K.: Why digital displays cannot replace paper: The cognitive science of media for reading and writing. Springer (Nov. 2020).



障害のある生徒へのICTを活用した合理的配慮

―読書バリアフリーに向けた取り組みの必要性―

なかのやすし
中野泰志

慶應義塾大学経済学部教授。専門は心理学、視覚障害、ヒューマンインタフェース、UDフラウザの開発やPDF版拡大図書の研究にも携わる。著書に、『新しい心のバリアフリーずかん』（監修）などがある。

■はじめに…障害のある生徒を指導する際の課題

国語科教育において重視されている「情緒力」「論理的思考力」「思考そのものを支えていく語彙力」を育成するためには、「聞く」「話す」「読む」「書く」という言語活動を有機的に組み合わせ、国語力の中核である「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」の四つの能力を伸ばすことが必要だと言われています。しかし、障害のある生徒にとって、現在の日本の教育環境、特に、通常の学級の環境では、情報保障などの環境整備やパーソナルアシスタント等の人的支援体制が整っていないために、基本的な言語活動、なかでも読書活動が制約されていて、授業への参加が制限されてしまうことが少なくありません。例えば、聴覚障害や言語障害のある生徒は、音声が入りにくかったり、明瞭に発話することが困難だったりするため、手話通訳や文字通訳等が日常的に保障されなければ、「聞く」「話す」活動が制約されてしま

います。また、視覚障害や発達障害のある生徒は、見えにくかったり、文字が歪んで感じたり、集中できなかつたりするため、紙の書籍を誰かに朗読してもらう、アクセシブルな電子書籍で提供される等の情報保障がなければ、「読む」活動が制約されてしまいます。上肢に不自由のある生徒は、ペンや紙を操作することが困難なため、ICT等を活用して代替入力を確保できなければ、「書く」活動が制約されてしまいます。そして、活動が制約された結果、授業等への参加も制限されてしまいます。

■配慮が必要な障害のある生徒数の増加

現在、日本では、障害のある児童生徒に対して、多様な学びの場において適切な指導及び支援が受けられるインクルーシブ教育システムが実施されています。令和四年に文部科学省が公表した調査報告によれば、直近一〇年間で義務教育段階の児童生徒数は一割減少している一

方で、特別支援教育を受けている児童生徒数はほぼ倍増しています。また、同年実施された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果でも、通常の学級で学んでいる障害のある児童生徒数が増加していることが報告されています。

日本学生支援機構が実施している実態調査によれば、大学で学ぶ障害学生も増加しており、令和三年の障害学生数は四万七四四人（全学生数の一・二六％）で、前回から五四〇三人増、障害学生在籍学校数は九四二校（全学校数の八〇・一％）で前回から七校増となっています。

今後、配慮が必要な障害のある生徒の人数は、さらに増加することが予想されています。

■合理的配慮の義務化

障害のある人達に対する「合理的配慮」の提供を民間事業者が義務付ける「改正障害者差別解消法」が、令和三年五月に可決・成立し、令和六年四月から施行されることになりました。これまで、「合理的配慮」の法的義務は国や自治体のみに対するものでしたが、この法改正により、私立学校を含むすべての事業者に対して、「合理的配慮」を法的義務として提供することが求められることになりました。そのため、障害のある生徒の言語活

動の制約や授業への参加の制限を取り除くための配慮を提供することが、教科書や教材の発行者を含め、すべての教育関係者に求められることとなります。

■ICTを活用した合理的配慮

日本が批准している国連の「障害者の権利に関する条約」では、合理的配慮を「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものを用い」と定義しています。例えば、視覚障害があるために、検定教科書にはアクセスできない生徒からの要望に基づいて、当該生徒の「読む」活動を保障するために、拡大教科書を用意し、授業等で利用できるようにルール等の変更・調整を行うことが合理的配慮に相当します。ただし、障害のある生徒からの希望通りにしなければならぬのではなく、他の生徒と比較して均衡を失した配慮や学校に過度の負担を課すような配慮の要望があった場合には、当事者との建設的な対話により、代替案で合意を形成することが可能です。具体的には、個別指導の要望に対応することは均衡を失した配慮になりますし、教科

書発行者が発行していない文字サイズの拡大教科書を新たに学校で制作することは過度の負担になるため、建設的に対話を重ねながら、自由に拡大や配色の変更等が可能な学習者用デジタル教科書や音声教材等を提供することで合意するというやり取りを行うことが可能なわけです。本来、通常の学校においても、障害のある生徒の入学を最初から想定し、必要な基礎的環境整備や人的支援を事前に行う必要があるわけですが、制度や予算等の制約があつて、実現が困難な場合もあります。そのような場合には、ICTを効果的に活用し、できるだけ、障害のある生徒の要望に応じることができるとの変更や調整を、建設的な対話を通して、実施することが重要です。

■ICTを活用した「聞く」「話す」活動への配慮

国語科だけでなく、すべての教科の指導において、「聞く」「話す」活動は、極めて重要です。しかし、聴覚障害や言語障害がある場合、手話や要約筆記等による情報保障が行われる環境が整備されていないと、教員だけでなく、生徒同士でのやり取りも困難になるため、国語力の中核である「考える力」等の四つの能力を伸ばす上で、大きなバリアになります。通常の学校では、聴覚障害特別支援学校のような手話等による情報保障は困難だと

思いますので、ICTを活用して、音を聞き取りやすくなり、声を文字化したりすることが効果的だと言われています。例えば、補聴器や人工内耳等を利用した生徒には「ロジャー」等の補聴を援助するシステムが、声を文字に変換して確認したい生徒には「UDトーク」等の会話を文字に変換するアプリが、文字で会話をしたい生徒には「LINE」等のトーク機能のあるリアルタイム・メッセージ交換アプリが効果的だと言われています。また、教材として動画や音声を利用する際には、字幕や文字起こしが必要ですが、「Vrew」等の自動で字幕・文字起こしができるアプリや「YouTube Studio」等のアップロードした動画に自動でテロップを付ける機能が効果的です。「PowerPoint」のように、プレゼンテーション中の言葉を、話している言葉と同じ言語のキャプションとして文字に起こして画面上に表示したり、別の言語の字幕に翻訳したりすることができるようになります。

■ICTを活用した「読む」「書く」活動への配慮

「読む」「書く」活動も、すべての教科の指導において重要ですが、特に、国語科においては、主体的・対話的で深い学びを実現する上で必要不可欠です。しかし、視覚障害や発達障害、肢体不自由がある場合、代読・代筆ができる代替入力装置・アプリも登場してきています。

東京大学先端科学技術研究センター「Access Reading」NPO法人エッジ「音声教材BEAM」、茨城大学「ペンでタッチすると読める音声付教科書」、広島大学「UD-Book」、愛媛大学教育学部「UNDOCK」、慶應義塾大学「PDF版拡大図書」が無償で利用可能になっています。音声教材等には、障害のある生徒の「書く」活動に配慮したアプリもありますが、近年、視線やスイッチ等で入力ができる代替入力装置・アプリも登場してきています。

■おわりに…読書バリアフリーの必要性

等の情報を保障する環境が整備されていないと、教科書を始め、様々な図書を「読む」活動や気づき等を整理するための「書く」活動のバリアになります。「読む」活動に対する配慮は、昭和四年の点字教科書の発行から始まり、平成二〇年に「教科書バリアフリー法」が施行され、拡大教科書が発行されるようになったことで、本格化しました。また、GIGAスクール構想等で教育のデジタル化が推進され、拡大や書き込み等が可能な学習者用デジタル教科書が提供されるようになり、障害のある生徒が教科書にアクセスしやすくなりました。加えて、学習者用デジタル教科書には、特別支援機能として、文字色・背景色の変更、ふりがな表示、リフロー表示、音声読み上げ等の機能が付加されているため、教科書のアクセシビリティはかなり向上してきました。ただし、生徒の障害特性によっては、特別支援教育機能だけでは、十分にアクセスできない場合があります。例えば、視野や眼球運動の障害のために縦書きの文章を横書き表示しなければならぬケース、視力が低いために操作のためのボタン等の視認性を向上する必要があるケース、過敏症等のために機械の音声や苦手なケース等があります。このようなケースに対応するために、音声教材等（日本障害者リハビリテーション協会「マルチメディアデザイン教科書」、

ICTの活用は、合理的配慮を提供する上で、重要なことですが、副教材等の図書にアクセスするためには、読書バリアフリー環境の整備が必要不可欠です。平成三〇年の著作権法の一部の改正に続いて、「読書バリアフリー法」の施行、「学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム」の設立、国立国会図書館「みなサーチ」の公開等が行われてきましたが、学校の読書バリアフリー環境整備は道半ばと言わざるを得ません。主体的・対話的で深い学びを実現するためには、すべての図書をアクセシブルにする取り組みが必要不可欠です。ぜひ、国語科の教員が、学校図書館と協力し、読書バリアフリーを実現する取り組みを実施していただきたいと思えます。



ロイノートを活用した、みんなが書けるようになる実践

つづきわたる
都筑航

富山県立小杉高等学校

■はじめに
二〇二〇年頃から、「GIGAスクール構想」の下で学校教育の現場に「1人1台端末」として端末が急速に整備されました。高等学校も例外ではなく、多くの現場で期待と困惑をもって端末を受け取ったことと思います。

新たなハイテク教具が配備されたとなれば、インターネットと高機能のデバイスを用いた立体的で近未来的な授業を展開することを夢見た方も少なくないでしょう。しかし現実的には、デバイスの利用制限や、制御しきれなくなる授業、そして何より、よく分からない沢山のアプリケーションと機能を前に、立ち尽くすような気持ちになったこともあったのではないのでしょうか。

しかし、生徒に配布された端末とアプリケーションは、単純な機能のみを使うだけでも、十分な成果を出すことができます。それはちょうど、我々がパワーポイントの

スライドの全てに華やかな装飾とアニメーションを使わないのと同じことなのです。

■実践校のICT事情

私が実践した高等学校では、Padとアップルペンシルが生徒に貸与され、「ロイノート・スクール」(以下ロイノート)と呼ばれる学習支援アプリケーションが導入されていました。

まずハード面から見いきましょう。現在日本では、Pad、Chromebook、そしてそれ以外のタブレット型PCが端末として主に用いられています。実践校ではPadが使用されていますが、その特徴としては2点が挙げられます。1点は、生徒にも普及しているiPhoneと使い方がほとんど同じで、直感的な操作が可能であること。もう1点は、そもそも電源を落とす機会が少ないので、使用開始までの待機時間が極めて短いことです。

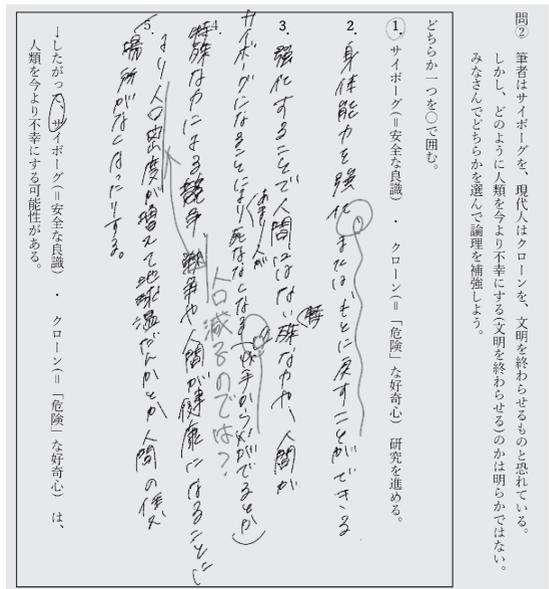
使用するロイノートは、生徒と教員だけでなく生徒同士の双方向性コミュニケーション性が高いアプリケーションです。PCやスマートフォンなど様々な電子機器に対応しており、ひとつのアカウントを複数台で使うことができます。学校でも自宅でもアクセスできるので、端末を持ち帰らなくても宿題に取り組むことが可能なことは大きなメリットでしょう。

■単元の概要

今回は「現代の国語」において意見文を書けるようになる単元を構想しました。

実施校の生徒は中程度の学力層であり、自力で書く力を習得することは、意欲の面でも能力の面でも難しい状況でした。しかし教員がきめ細やかな指導をするには、40名弱という規模はあまりに大きすぎます。そこで、ロイノートの機能を活用して生徒同士の相互評価という言語活動を組み込むことで、生徒は授業に関心を持ちつつ即時にフィードバックを受けられ、書く力を向上させることができるのではないかと考えました。

なおこの単元は、『新編 現代の国語』(現国707)の「意見文の基礎を学ぼう」においても同様に展開できます。単元は、文章を読解する段階とその内容を元に意見文



▲図1 ロイノートによる添削

生徒の心理的負担を減らしました。さらに、教員が意見を簡単に添削することによって読み手の存在を意識させることをねらいました(図1)。この意識づけによって、意見文を執筆した際に読み手に寄り添った文章を書けるようになることを考えました。

図1の整理をもとに意見文を原稿用紙で執筆し、ワークシートを用いて、それを生徒同士で相互評価をしました。相互評価することを予告された上で執筆するので、生徒は自分の意見文を、教員だけでなく生徒にも読まれるものとして意識します。

相互評価の際にはロイロノートの生徒間通信を用いました。これは、生徒同士でデータのやりとりが可能になりました。これは、生徒同士でデータのやりとりが可能になりました。生徒はペアになり、ペアの相手に原稿用紙を手渡しして、データ(今回はワークシート)をロイロノートで送ります。送られた生徒は、原稿用紙に書かれた意見文を読みながら、評価項目にしたがってワークシートに評価をしていきます。評価を書き込んだら、元の生徒に送り返します。最後に、自分に対する評価が書かれたワークシートを、提出箱という機能を用いて教員に提出し、学習を終了しました。今回の単元では、14人中14人が意見文を提出し、全員が「序論・本論・結論」の文章構成を用いることができました。

このように、相互評価を導入することで、生徒たちは意見文を書くという行為に積極的な意義を見だし、主体的に学びに参加したであろうことがわかります。そして、双方向性の高い活動を行う際に、ロイロノートは非常に便利な味方となります。

今回私が用いた機能は、

- ・PDF化したファイルを生徒に配布する。
- ・配布したファイルに生徒が書き込む。
- ・書き込んだファイルを生徒間通信でペアの生徒と送受信する。

・提出すべきファイルを提出箱を用いて提出する。
・アンケートを作成し解答させる。
の5つです。最初こそ難しく感じるかもしれませんが、慣れてしまえばとても便利な機能です。

また今回の実践では活用しませんでした。ロイロノートによる成果物の相互評価では、従来の物理的なプリントの交換と比べ、「匿名性の担保」が可能という大きな特徴があります。

現代の生徒は、集団の前で褒められることすら忌避し、集団の中に埋没しようとする傾向があるようです。「匿名性の担保」は、そういった生徒に対してこちらが成果物を例として添削する際だけでなく、何らかを創作させ、

ワークシートには文章構成を書き留めておくスペースがありますが、そこを手狭に感じた生徒は、自らロイロノート上でカード(付箋のようなもの)を追加し、積極的に文章構成を練っていました。このようにロイロノートは、生徒が自主的に拡張できる要素が用意されており、学びたいように学ぶことができるツールであると感じています。

授業後にロイロノートの機能を利用してアンケートを実施しました。(このアンケート機能を使うと非常に簡単にアンケートを作成でき、集計結果も見やすいので大変便利です。)ここでは相互評価についての3名の生徒の記述を引用します。

生徒A「他の人が評価するシステムはすごくいいなと思います。客観的な評価を得ることで、『ここができてない』というのを見つけやすくなるので、これからもぜひそういう形にしてほしいです!」

生徒B「どうやったら読む人がわかりやすいのかを考えながら書くことができたのでよかったですかと思いましたが、」

生徒C「人によって同じテーマで書いても、全く違う文章ができていて、人の文章を読むのがとても楽しかった。」

他者の成果物を評価する際に役立つでしょう。

■ICTの今後の展望

「1人1台端末」と付随する沢山のアプリケーションは、現場の教員にとって使いやすい機能が、時間の経過とともに精選され、いずれ肌なじむチョークのような存在になるでしょう。一方でチョークと異なる点は、話題のChatGPT。然り、技術革新とともに様々なモノが登場しては消えてゆく点にあります。しかしながら、いつか無くなるかもしれない手を出さないというのはあまりに惜しいことです。教育をよくするために優秀なエンジニアたちが開発した財産は、むしろ使い尽くしていくべきだと思います。

インターネット環境が日本中に整備され、生徒が情報の洪水に吞まれている現在、生徒たちは未成年でありながら情報の受信者だけでなく良識ある発信者であることも求められます。そしてその情報には文字に限らず、図表や画像、音声も含まれます。それらの多様な情報を同時に扱えるようなリテラシーを養うという点でも、プライベートな場だけでなく学校の学習活動という、生徒にとってオフিশナルな場で情報を組み立て発信する経験を積み重ねることが重要ではないでしょうか。



効果のあるICT授業活用方法7選

あだちしょうじ
奈良県立国際中学校・高等学校

■ICTを授業で活用するかどうかの判断基準

元来私はICT不要論者であり、ICTなど別になくとも魅力的な授業は可能であると考えている。そんな私が授業でICTを活用するかどうかを判断する基準はいったってシンプルで、「ICTを活用した方が、教育効果が高いかどうか」である。ここでは私がそう判断した、ICT授業活用法を紹介する。

① Google Forms 冒頭5分で古典文法を「ちょっと確認」

【概要】 古典文法の既習事項を、授業の冒頭5分で毎回確認。自動採点でその場で復習可能！

【ICT導入以前】 前回の学習内容を確認し、数名指名し、答えさせていた。あるいは小テストを実施していた。

【方法】 「未然形の下にくる助動詞はどれ？」「次の敬語のうち尊敬語はどれ？」などといった問いをフォームで作成し、テストモードにして自動採点されるように設定し

ておく。授業冒頭に教員が本文を板書するおよそ5分間を、文法の確認タイムに活用できる。

【メリット】 生徒から一番好評なものはこれである。指名された生徒のみではなく、全員が復習可能である。小

テストの作成・印刷・配布・答え合わせ・回収にかかる

時間が5分程度に短縮される。選択肢も

ランダムに設定でき、作成の手間は少ない。面倒でないの

で毎回でもできる。早く答え終わった生徒は、ノートを見ながら復習することも

できる。文法の基礎が、導入以前よりも

次の語句は、どの活用形の下に置かれるか。

	未然形の下	連用形の下	終止形の下	連体形の下	已然形の下
変身・尊敬・可能・自発「らむ」「らむ」	<input type="radio"/>				
現在推量「らむ」「らむ」	<input type="radio"/>				
推定「なり」「ゆり」	<input type="radio"/>				
過去「む」「りり」	<input type="radio"/>				
過去推量「けむ」「けむ」	<input type="radio"/>				
完了「つ」「つ」	<input type="radio"/>				

Google Formsの問題画面

着実に身につけている。授業冒頭で文法を確認するので、授業本編は文法中心主義からの脱却も容易となる。

② Kahoot! 古典文法クイズ大会

【概要】 古典文法4択クイズ大会で、クラス全員で楽しく覚える！

【ICT導入以前】 準拠ノートなどをやらせながら、古典文法の定着を図っていた。

【方法】 Kahoot!はノルウェー発祥のクイズ作成ツールである。無料版では2〜4択クイズが作成できる。生徒は各自の端末で参加し、正解・不正解のみならず、速さも判定され、速く正確に答えられた生徒が表彰される。

①の「ちょっと確認」で使用したような問いを使う。

【メリット】 一人で覚えるよりも、みんなで覚えた方が楽しいと思わせてくれるツールである。知識の定着が必要な場面、なかなか楽しい授業になりにくいという時におすすめである。生徒はとても喜んで取り組む。



Kahoot!の問題画面

③ Google Forms 単元テストを自動&手動採点

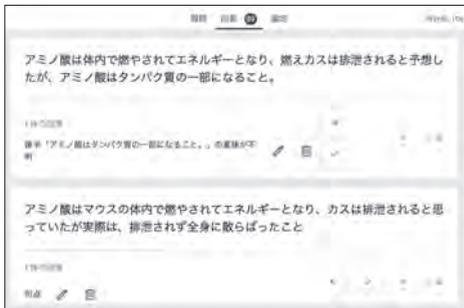
【概要】 単元テストを、フォームで楽に速く採点！

【ICT導入以前】 本校では定期考査を廃止し、単元ごとに観点別評価をしている。単元ごとにテストを実施することも多い。定期考査と同様、膨大な量の採点が大変。

【方法】 単元テストを紙と鉛筆で35分程度実施後、筆記用具を片付け、5〜10分間、自分が記入した内容をフォームに入力させる（記入時間を短くし不正を防止）。フォームはテストモードにし、「結果を後で通知」という設定に。選択肢や抜き出し問題などは、自動採点可能。「〇〇字で書け」といった記述問題も、実は手動で採点することが可能。

字数制限も設定可能。後日一斉に「スコアを通知」で返却できる。

【メリット】 採点が圧倒的に楽である。記述問題は、同じ回答をくっつけて表示してくれる。生徒に細かなフィードバックを送ることも簡



Google Formsの手動採点画面

単なので、生徒もなぜ減点されたか理解しやすい。

④ Google Classroom ドキュメントで課題

【概要】 記述量の多い課題をドキュメントで提出できるようにする！

【ICT導入以前】 生徒に脚本を書かせたり、小説を書かせたりしたことがあった。しかし紙の量が多くなる上に、こちらが助言をしても、書いたものを消すのが面倒だというのが先行し、生徒が助言を受け入れにくいということがよくあった。

【方法】 Classroom の課題を Google ドキュメントで提出させる。『山月記』を演劇化したときの脚本制作、『山月記』の冒頭部を子ども向けにリライトする、『羅生門』を老婆の視点で書いてみる、『源氏物語』若紫を映画化したときの脚本制作といった学習活動で、ドキュメントで提出させた。

【メリット】 提出前であっても進捗状況が教員から見えるようになっていたため、適宜アドバイスをしやすい。紙に書いたものとは違い、内容を修正するのが容易であるため、推敲がしやすい。膨大な紙は不要となり、印刷しなくても作品の共有が可能。Classroom 上でルーブリックを作成すれば、容易に評価もできる。

⑥ Google Classroom・ロイノート 音読動画を提出

【概要】 古典などの音読を動画で撮影し、提出させる！

【ICT導入以前】 意味のまとまりを理解する上で音読は重要で、特に古典では必須である。全体で音読したり、ペアやグループで音読したりしていた。古典の音読テストも実施したことがあるが、長蛇の列が出来てしまい、かなりの授業時間を要するというのが課題であった。

【方法】 古典や『山月記』冒頭部などの音読を動画で撮影してもらい、Classroom の課題やロイノートで提出してもらう。

【メリット】 小学校では音読を家族に聞いてもらう宿題が多い。高校でも効果的な宿題として課すことができないかと考えたのがこれである。生徒は撮影にあたって何度か練習するであろうし、動画を確認することでそれぞれの生徒の本文理解の状況もよく分かった。

⑦ ジャパンナレッジスキル 検索環境の改革

【概要】 辞書の横断検索ツールで、「なんでもかんでも Google 検索」という悪しき検索環境を改革する！

【ICT導入以前】 意味調べや予習では、紙の辞書や電子辞書の使用が基本だが、Google 検索する生徒もおり、課題であった。

⑤ Google Classroom・ロイノート スライド一枚課題

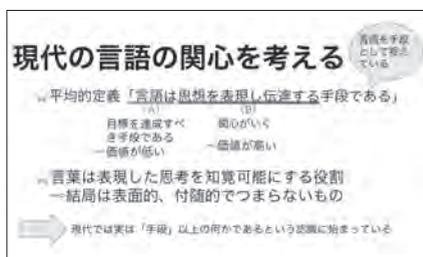
【概要】 一枚のスライドにまとめ、みんなと共有する！

【ICT導入以前】 短く端的にまとめさせることは大切で、要約や内容把握の力を培うためにワークシートなどを工夫していた。ノートにまとめさせた時もあるが、ダラダラ長く書いてしまっている生徒も多かった。

【方法】 Google Classroom でスライドの課題を課すこともできるが、生徒同士で共有するにはロイノートが便利である。

現代文評論の意味段落の内容を一枚のスライドにシンプルにまとめる、古典で習った作品の映画広告を構想し一枚のスライドで表現するといった活動を行った。

【メリット】 スライド一枚という限定された空間によって、端的にまとめる主体的なトレーニングになりやすい。まとめた後に共有もしやすい。



↑池上嘉彦「言葉についての新しい認識」の第二段落を、1枚のスライドにまとめるという課題の生徒作品

【方法】 本校で契約している有料サービスで、大量の辞書や百科事典を横断検索できる。角川ビギナーズクラシックや小学館古典文学全集シリーズも全冊読める。

【メリット】 意味調べや探究の質が変わるだけでなく、授業中に共通の辞書を全員が見ることができたため、古語辞典で「ここでは何番の意味？」といった問いかけが可能。ある評論で登場した「オーバートゥリズム」を全員で百科事典を使って調べた際には、「オーバートゥリズムの被害に遭っている都市は、具体的にはどこ？それは何段落目に載っていますか？」と問いかけ、クラス全員で考えることができた。

■そもそも主体的に学ぶ授業を構想しているかどうか【ICT導入以前】の項にもあるように、私は一人一台端末がない時代から、生徒が主体的に学ぶための方策を悩み、考え続けてきた。大切なことは「生徒が主体的に学ぶようになるにはどうすれば良いか」を日々考えることではなからうか。ICTはその解決策になるかもしれないし、ならないかもしれない。つまるところ大切なことはICTではなく、授業構想力であり教材研究であり、生徒への願いなのだと思う。



YouTubeを活用した「言語文化」の反転授業

うめざわまさこ
梅澤真人

東京都立川高等学校

——「あづま下り」を例に——

■はじめに

昨年度から始まった「言語文化」。多くの学校では一年生で実施し、古典分野の学習に大きく時間を割いていらっしゃるのではないのでしょうか。古典初学者の一年生では特に、古典文法などの言語事項などに授業の時間の多くを費やしてしまい、背景知識なども踏まえて本文を読解して本文自体の魅力を感じたり、和歌の解釈をしたりにすることに時間を割くことが難しいことと思います。

そこで、予めYouTubeで言語事項を解説しておいて、授業時間は読解や解釈に時間をかけるという授業を、私の拙い経験を基に皆様にご紹介いたします。

■反転学習（反転授業）とは

反転学習（授業）には様々な定義・形態・ねらい・由来があります。最も一般化したのは、アメリカの高校教師、ジョン・サン・バーグマンとアーロン・サムズを取り組みが有名になってからでしょう。簡単に説明すると、

ニングと呼ばれる読解・作文・討論・問題解決などの活動において分析・統合・評価のような高次思考課題を行う学習の流れに位置づけることができる。

授業者のねらいや学習者の到達状況に応じて意識的にこの二つを使い分けることで、様々な目的を効率的に達成するための授業計画が考えられそうです。

■取り組みに至る経緯（現状の分析）

私が動画教材の作成を始めたのは、一二年ほど前です。当時の勤務校はあまり勉強が得意でない生徒の多い学校でした。大学入試が必要な生徒のために作りましとを協働的に行うことで、卒業後すぐに社会に出ても耐えうる力を身に付けることを目標としていました。

現在の進学校に赴任し、言語事項に割く時間が非常に多いため生徒の活動時間が十分に取れず、オープンエントナ課題を行っても最後は自宅学習（宿題）となってしまう、効果が疑わしい（ネット等のコピペで終了）といった状況がありました。また、生徒の学習実態と効果を考えたときに、かなりの時間を言語事項の学習に割くことが効果的なのかという疑問がありました。あらゆる言語学習において、「慣れ」というものが必要なことに異論はないと思います。一年生の一学期では古文を単語に区

客観的な知識や技能は自宅でビデオ教材とテキストを基に学習し、授業の際には議論や演習など、他者と協働したり解や手法が一つに決まらない問題に取り組んだりする学習を行って教育効果を高めようという教育活動です。彼らの本「反転学習」の序文で、東京大学の山内准教授と大浦特任助教（役職は発刊当時）は、反転学習を二つの類型に分けています。（以下同書の要約）

・完全習得学習型：早期に学習者評価を行い、理解度の低い学習者に特別な処遇を与えることで、全員が一定基準以上の理解を目指す教育方法。予習としてオンライン学習をした後、十分理解していない学習者に対して教員や理解度の高い学習者が対面活動で指導することが多い。

・高次能力学習型：従来の学習（授業）よりも高度な臨床に関する能力、いわゆる「21世紀型スキル」育成を目標にする教育方法。高等教育では、アクティブラー

切ることや用言の活用があやふやだった生徒も、慣れてきた三学期には問題なくできるようになることが多いことは、経験上納得していただけるのではないのでしょうか。私は一〇年ほど前から生徒の答案の正誤を記録していますが、データのにも、どのようなスタイルで授業しても、古典が苦手な生徒のグループが、一年で品詞分解までできるようなことが裏付けられます。もちろんこれは、授業で繰り返し続けたからという可能性を排除できるものではありません。しかしやはり「言語学習」のひとつである古典学習においては、時間が解決することが大きいのではないかと考えました。

反転学習を本格導入したのは、コロナ禍の影響が大きいです。これによりオンライン学習の環境が整い、すべての生徒がYouTube等で動画教材を見られるようになりました。また、学校の教室という場に生徒が集って学習する意味と効果を深く考えさせられました。

■ねらい

私は、この反転授業の取り組みで、「完全習得学習型」「高次能力学習型」の両方を部分的に取り入れることにより、以下のようなことを達成したいと考えています。

①基礎的な言語事項を動画による予習とすることで、授業での言語事項の確認・定着の質を高めること。また

		4月課題テスト	1学期中間	1学期期末
言語知識	学年平均	32.2	37.7	25.6
	担当クラス	30.2	35.0	23.4
読解 思考力	学年平均		26.9	24.1
	担当クラス		25.3	24.7

成績 ※学年：7クラス 担当クラス：2クラス

私の担当している二クラスは、言語知識に関しては平均点では入学当初から学年平均を下回っていました。中間・期末検査でも、その傾向に大きな変化はありません。逆に言えば、授業であまり言語事項に時間を割かなくても、学習の定着

・予習段階での疑問点の解決時間
 ↓生徒同士の交流と教員への質問（二〇分程度）
 ・発展的な言語事項（文法・訳）の演習・解説
 ・読解問題（空欄補充）に、個人／グループで取り組む。
 全ての課題を三時間かからずに行えました。また授業中に調べたり議論したりする時間が充分に取れるため、多くの解釈が出て議論が活発化します。最後に手短に解説を行います。和歌は本文を踏まえているという特徴を

意識させることで、本文中の現代語訳を確認し直す機会も得られます。授業中に動画を見直す生徒もいました。

■実際の効果

今学期の一年生で行った試験の結果と、課題や振り返り等生徒の意見を基にした私の分析をご紹介します。なお、反転学習を取り入れたのは中間検査後です。

私の担当している二クラスは、言語知識に関しては平均点では入学当初から学年平均を下回っていました。中間・期末検査でも、その傾向に大きな変化はありません。逆に言えば、授業であまり言語事項に時間を割かなくても、学習の定着

- ① 授業後の復習で学習者が自分の課題を自覚して繰り返し見直せる教材を提供すること。（完全習得学習型）
- ② 言語事項の説明に割く時間を削減し、教室の中で活動する時間を増やすこと。（高次能力学習型）
- ③ 授業に出られなかった学習者に教材を提供すること。
- ④ 中・長期的な教材作成時間を短縮すること。

■動画の概要と作成方法

私は、以下のような動画を作成しています。

【授業の本文】

- ・品詞分解等の言語知識（古文・漢文）
- ・逐語訳的な本文の現代語訳（古文・漢文）
- ・白文による文構造の確認（漢文）

【汎用的な言語知識】

- ・用言や助動詞、句形などの解説

【授業の本文】の動画は、長いものと二〇分を超えます。一方【汎用的な言語知識】は、長くても五分を意識しています。教材で出てくるタイミング、あるいは言語知識小テストを行うタイミングで生徒に提供していきます（二・三年生は一覧で提供）。動画はYouTubeに、アドレスを知っている人だけが見られる「限定公開」でアップロードし、生徒に共有しています。

動画は、Zoomを利用して作成しています。ミーティ

ングを立ち上げ、それを録画するという方法です。黒板に板書しながら説明する場合もありますし、パワーポイントを画面共有して書き込みながら説明する場合もあります。どちらも、オンライン授業を行うのと同じです。で、比較的手軽に作成が可能だと思います。

■「あづま下り」の授業

【動画】

- ① 本文の品詞分解および文法的解説
- ② 本文逐語訳（①②とも本文全て）

【授業の展開】

- ・授業プリントの言語事項に関する確認
- ↓確認問題を実施して理解度を測る（短時間で）

問1 Aの和歌について。

① 使われている和歌の技法をすべて解説しなさい。

② この本文の和歌は本文を踏まえて書かれています。本文を踏まえてこの和歌を現代語訳して解説しなさい。

③ この和歌を聞いた同行人の気持ちを説明しなさい。

問2 和歌BとDの和歌について、使われている和歌の技法を解説した上、本文を踏まえて和歌を現代語訳しなさい。

問3 和歌Cで「時知らぬ」と書かれた理由を説明しなさい。

問4 和歌Dの直後で「船こぞりて泣きにけり」となった理由を説明しなさい。

※AとDは本文に出てきた順です。

「あづま下り」確認問題

度に大きな差は出なかったと言えます。

一方、読解力や思考力を問う項目については、中間検査時は学年平均を下回っていましたが、期末検査時は若干ですが上回りました。今後の経過を見る必要はありますが、効果が出ていると言えそうです。

私の担当クラスでは中間検査後、教育実習の学生が「羅生門」を五コマ分担当した関係で、他クラスよりも少ない授業時間で期末検査を行ったことになりました。オープンエンドの探究的課題も授業中に時間を割いて実施し、提出させています。これらの取り組み状況は非常によく、振り返りでも古典に対して負のイメージを持つ生徒はほとんどいません。これらのことから、知識的部分の学習効果を担保しつつ諸所の活動を実施することで古典に対しての意欲向上を図れると考えます。

反転学習の効果はあまり実証研究が進んでいないのでなかなか取り組みにくいのが実状です。しかし、生徒が反転での学習に慣れてしまえば、授業時間をより効果的に使用できたり、生徒のつまずきやすい部分に効率的に時間を割いたりすることができる可能性を秘めていると感じています。一度作った動画は翌年以降も使用可能なものが多いので、準備時間の短縮も可能な授業方法だと考えています。



漢文×ICT＝見抜く力 — ChatGPTファンをへく —

さかいまさみ
酒井雅巳
東鴨中学校・高等学校

皆さんは、生徒から「なんで漢文を勉強しなきゃならないんですか?」と聞かれたとき、どのように答えていますか? 駆け出しの頃は「覚える量が少なく、最も効率的にテストで点数が取れるからだよ」などと身も蓋もないことを言っておりましたが、最近は一言、「え、だって面白いよ」と言うことにしています。一様に生徒は、「え?」という顔をしますが、授業で漢文の話の面白さに触れると、多くの生徒が興味をもってくれるようになります。

話の面白さに気づかせるためには、興味をひく仕掛けが必要です。特に単元の授業開きです。『史記』を取り扱うならば『キングダム』がもってこいですし、于武陵の「勸酒」にはフジファブリックの「手紙」の歌詞が最適です。

ICTを活用するのも有効です。古典はICTと縁遠いように感じられますが、そんなことはありません。教

特に挙げられるのが、「回答された内容が必ずしも正しくない」ということです。ChatGPTに質問した回答を見ると、一見正しいように見えるのですが、よく読むととんでもない間違いを含む文章であることがよくあります。だから、利用するときは気をつけましょう、ということなのですが、筆者はこの性質を逆に利用しようと考え、授業実践をしました。

授業案 ChatGPTを利用した漢文の授業

教材 大修館書店『言語文化』(言文705)「鶏鳴狗盗」

対象 高校一年生

使用アプリ iOS Ask AI
https://askai.chatapp/?adjust_referrer=adjust_refrag%3Dcow8ed9T0OWLrD

授業準備として、まずはChatGPTに「鶏鳴狗盗って何?」と質問します。すると下のような答えが返ってきました。

驚きの回答です。ほぼ間違いです。「鶏鳴狗盗」が『論語』の中に出てくる言葉なんて! 内容もいかにもな感

材との組み合わせ次第では、予想以上の効果があると実際に授業をしてみても実感しています。しかし、先生方のなかには、わかってはいるけど、準備が大変だったり、ICTの専門的な知識が多少必要だったり、なかなか一歩踏み出せない方もいらっしゃると思います。そこで、今回は、準備に手間がかからず、漢文の話の面白さを存分に引き出してくれるICT×漢文の授業を紹介したいと思います。

今回紹介するのは、近頃世間を賑わせているChatGPTを利用した漢文の授業です。ChatGPTとは、アメリカのOpen AI社が開発した、人工知能を使用したチャットサービスのことで、人間の質問に対してまるで人間のように自然に答える技術を搭載しています。ChatGPTを使えば一瞬で文章を作成できてしまうので、生徒が自分で書かなくなる、書く能力が落ちる、と懸念されています。また、ChatGPTを利用するときの注意点として

がありますが、全くのデタラメです。ChatGPTは、この回答をものの三十秒で導き出してしまっています。一見すると、きちんと書かれているように見えるところがクセモノです。質問の仕方やアプリの違いなどで、回答はかなり変化しますが、質問内容を変えたり、アプリを変えて試してみても、「鶏鳴狗盗」の適切な説明ができたものは皆無でした。

鶏鳴狗盗って何?

「鶏鳴狗盗」は、中国の四書五経の一つである『論語』の中に出てくる言葉で、字義は「鶏の鳴き声を聞いて犬が盗む」という意味です。この言葉は、親が正しい行いを見せずに子供に説教することの無意味さを表すために用いられます。

具体的には、親が子供に「正直であれ」「盗まないであれ」と説教する一方で、親自身が不正や盗みをしていると、子供は親の行動を見て学び、親の言葉よりも親の行動を信じるようになります。これによって、親の説教は子供には無意味になってしまうということを表現します。

また、「鶏鳴狗盗」に出てくる人物や場所についてもChatGPTに質問してみます。「」は、どのように質問したのかを具体的に示しています。

「孟嘗君って誰？」
 孟嘗君（もうしょうくん）は、中国戦国時代の秦国の政治家・思想家で、姓は姫、名は昌。孟嘗君は、秦国の宰相であり、その政策によって秦国を強大な国家に育て上げたと言われています。

姓と名は、周王朝の基礎を築いた文王の情報を取ってきたものと思われま。網かけの部分も、おそらくは秦の礎を築いたとされる、秦の宰相であった商鞅のことを言っていると思われま。

「秦の昭王を教えて」
 秦の昭王（しょうおう）は、中国戦国時代の秦国の第二十八代の王で、名は政（まさ）。在位期間は紀元前三二五年から紀元前二四九年までで、先代の孝公の政策を継承し、秦国の統一を成し遂げたことで知られています。

この情報の厄介なのは、秦国の第二十八代の君主なのは間違いないのですが、王としては第三代であるところ。そして、網かけの部分は、ご存じの通り、始皇帝の記述です。名の振り仮名が（まさ）になっているところにかわいさを感じてしまいました。

授業の準備は整いました。ChatGPTに回答させたものをプリントにまとめ、授業の最初に「鶏鳴狗盗」の資料として配布してしましましょう。生徒たちは、補足の資料として何の疑問もなくそのプリントを読みます。そして、その時点では内容に関して疑問に思う人がほとんどいません。

この状態で、授業を進めていきましょう。授業で内容読解を進めるとき、あえて補足資料は用いず、教科書の注を使って進めてください。授業を進めていくにつれ、少しずつ生徒たちがざわついてくるはず。す。

「孟嘗君は秦の宰相なのに、なぜ、秦の君主に他国から呼ばれるんですか？」

「教科書の注と補足のプリントの孟嘗君の姓と名が違うんですけど、どっちですか？」

生徒からこのような疑問が出てきたらこのタイミングでタネ明かししてしまってください。「実はね、このプ

卒業生とご飯を食べに行くと、ほぼ百パーセント言われることがあります。

「先生、サヨナラだけが人生だ、ですよね！」

于武陵の「勸酒」を授業で取り扱うとき、「この合言葉覚えていたら、ごちそうしてあげるよ」と言っ、井伏鱒二の有名な訳を教えます。

コノサカズキヲ受ケテクレ

ドウゾナミナミツガシテオクレ

ハナニアラシノタトエモアルゾ

「サヨナラ」ダケガ人生ダ

「私が『コノサカズキヲ受ケテクレ』と言ったとき、『サヨナラダケガ人生ダ』と返してくれたら、ごちそうしてあげるよ」

彼らはその言葉をちゃんと覚えていてくれるのです。こんなに嬉しいことはありません。ただ、一つお願いしたいのは、こちらが合言葉を言っから、返してほしいということ。会った矢先に「先生、サヨナラだけが人生ですよね！」と言わないでください。合言葉のやり取りがしたいのに！

プリントはChatGPTで作ったものなんだよ」と。教室のあちこちで、えー！ という声が聞こえるでしょう。「教科書の注と全然違うこと言ってるー」「プリントもらったときに何か変な感じしたんだよねー」など、タネ明かしをすると様々な反応が返ってきます。そこですかさず、「せっかくだから、ChatGPTの書いた説明のどこが違うのか、比較してみようか」と言っ、注の比較読みを始めてましよう。

「ほとんど訂正しなきゃじゃん」と言いながらも、楽しように赤入れをまします。生徒には孟嘗君や昭王の説明が書いていないプリントを配布し、「配布したプリントに自分で訂正した内容を書いてください」と指示をますると、赤入れたものを参考にしながら、配布したプリントに自分で訂正した文章を書いてましました。

このような授業を行うことで、ChatGPTの書いた文章を鵜呑みにしてはいけないことを実際に体験できるとともに、ChatGPTの文章を訂正する作業を行うことで、孟嘗君や昭王がどのような人なのかを深く学ぶことができ、「鶏鳴狗盗」の内容をより深く学ぶことができたのではないかと感じています。



データベースを活用し、自分の考えを深める

おか
岡かなえ

東洋大学東北中学高等学校

■単元の概要とねらい

約二年前にスタートした新学習指導要領から、新たに情報の扱い方に関する事項が加わりました。情報化の進む現代において、グラフなどの数値データを適切に読み取る力、さらにはグラフと文書など様々な情報のつながりを考えながら理解を深める力は、今後より重要になってくると思われます。

これらのことを踏まえ、「データベースを正確に読み取り、的確な主張を生み出す。」ということを目標とした「現代の国語」の授業案を紹介します。

具体的な指導事項としては、「知識及び技能」の「(2) ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。」「(思考力、判断力、表現力等)」の「C 読むこと(1) イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評

価したりするとともに、自分の考えを深めること。」を意識しています。

本単元は、「SDGs」のなかの「2 飢餓をゼロに」に着目した内容とします。さらに、書籍などの資料ではなく、現在進行形の問題に素早くアクセスできるデータベースを用います。これは、「今まさに起きている国際社会の課題を自分事として捉えること、未来の世代に対して責任をもつ」という意識を生徒たちにもたせたいと考えるためです。

実施のタイミングとしては、「総合的な探究の時間」で世界の貧困や食糧問題に目を向けるタイミングがあるのでしたら、そのつながりで行うのがよいでしょう。また、『現代の国語』(大修館書店)に掲載されている「プラスチック汚染からは逃げられない」(中嶋亮太)で「14 海の豊かさを守る」に該当する内容が扱われていますので、それを導入として展開することも面白いと思われれます。

■各自の目標と学習内容

本単元は第一次から第三次までで計画しています。

①各時の目標

【第一次】 WFP 国連世界食糧計画のハンガーマップ・ライブから世界の飢餓問題の現状を読み取り、原因を分析して文章にまとめる。

【第二次】 世界の飢餓問題に対して、(A) 国連世界食糧計画(WFP)・(B) ODA(政府開発援助)でどのような取り組みをしているかをまとめたうえで、世界の飢餓問題に日本が取り組む意味を一人ひとり考える。

【第三次】 世界の食糧問題の課題・原因・解決に向けた取り組みについて整理したうえで、先進国日本で暮らす自分たちに行えることは何かを考え、話し合う。

②各時の学習内容

【第一次】

まず生徒に、WFP 国連世界食糧計画のハンガーマップ・ライブを紹介し、このデータの内容を自分自身で分析させます。ハンガーマップ・ライブとは、世界九〇か国以上の食料不安の状況をほぼリアルタイムでモニターしており、紛争や異常気象、人口に関する最新のデータを用いて、現在食料不安に陥っている地域、または食料不安のリスクがある地域を特定することを目的と

してつくられたものです。また、情報が限られている国や地域については、「ナウキャスト(nowcasts)」と呼ばれる、食料不安の予測データをAIを使って導き出しています。

なお、生徒に調べさせるデータは以下の四つです。

- ・(1) Conflict(争い)(図1)
- ・(2) Current Food Consumption(現在の食料消費量)
- ・(3) Vegetation(植生)
- ・(4) Rainfall(雨量)

(1) からは紛争が飢餓問題に影響を与えていることが、(2) からは飢餓問題がどの地域で多く見られるかが、(3) からは植物の多い地域と少ない地域がどこかが、(4) からは雨量の多い地域と少ない地域がどこかが読み取れます。

データベースの情報は膨大な場合も多いですので、このように調べる範囲を教員が区切って指示することも大切な

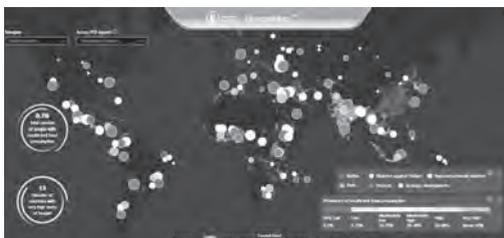


図1:ハンガーマップ・ライブ(Conflict)

このように思います。

この四つのデータから、世界の飢餓問題はどの地域で多く発生しているのかを読み取らせ、またその原因としてどのようなことが考えられるかを考えさせます。この時、生徒の理解度に応じて、データごとに読み取れる内容を確認する学習活動を取り入れるとよいでしょう。

その後、生徒一人ひとりに文章でまとめさせた後、クラスメイト同士で考えた内容を共有させます。

生徒が一人一台PCを使用できる状態であれば、サイトを生徒自身が検索して調べるという経験をさせることが大切だと思います。もしPCが準備できないようであれば、教員が資料を紙で提示する必要があります。

なお、このデータベースを活用する際の難点の一つとして、英語表記ということが挙げられます。とはいえ、ほとんどが単語であるため、調べるのも理解するのもさほど難しくありません。教員が英単語の意味を調べて生徒に提示するのもよいですが、生徒に調べさせるのも大して時間はかからないと思います。また、英語科の教員と連携してこの単元に取り組むことも教科横断的な学習の観点から面白いと思います。

【第二次】

まず、生徒に (A) 国連世界食糧計画 (WFP)・(B)

対策を行っていることを読み取らせたいと思います。また、企業の取り組み(例…味の素株式会社のフードロス低減への貢献)を読み取らせるのも面白いでしょう。このように、学んだことをもとにして、さらに知りたいことについて範囲を広げて調べていけることが、PCを自由に使える環境下ではより手軽になります。

そして、世界の飢餓問題に対して国連機関及び日本政府がどのような支援を行っているかを文章でまとめさせた後、なぜ飢餓問題を国連機関及び日本が取り組むのかについて話し合かせます。

【第三次】

まずは、第二次までに学習した内容を簡単に整理させます。その後、先進国日本で暮らす自分たちにできることは何かを考え、話し合かせます。

なお、発展学習として、食料安全保障をテーマにした模擬国連を行うのも面白いでしょう。模擬国連とは、生徒が各国の大使になりきり、議題についてそれぞれの国益を考慮しながらも、国際社会としての課題解決に貢献するための交渉・演説を行う学習活動です。生徒は担当国や議題について調査したうえで政策立案する必要があるため、国際課題の理解はもちろん、交渉力や協調性なども求められます。また、担当国の特徴を調べたり政策

ODA (政府開発援助) の飢餓問題に対する取り組みの分かる二つの資料 (Webサイトの情報) を提示します。

・(A) 国連世界食糧計画 (WFP) 日本語公式サイト
 V 国連WFPの活動V 飢餓の撲滅

・(B) 外務省V 外交政策V ODAと地球規模の課題
 V ODA政府開発援助V SDGs・分野別の取組V 農業開発V 日本の取組・実績

(A) からは、飢餓問題の原因として紛争・気候変動・不平等 (格差)・食品ロスなどがあり、支援として食料や栄養支援・現金支給・セーフティネットの強化・食品ロス・ゼロ・プロジェクトなどを行っていることが、(B) からは、短期的な取り組みとして、食料不足に直面している開発途上国に対して食料援助を、中長期的な取り組みとして、品種開発や政策の立案支援、インフラ整備などの支援を行っていることが読み取れます。

第一次で飢餓問題の原因をデータから読み取る学習を行います。その時の自分の分析の確認が (A) の資料の読み取りをする際にできます。ここでは、自分のデータ分析が正しかったという経験をさせることで自信をもたせると共に、国際機関もデータをもとに動いているということを認識させられるとよいでしょう。

その後、(A) (B) の支援内容から、先進国が様々な

を考へたりする際には、外務省や担当国のサイト、国連機関のサイトを調べる必要がでてきます。膨大なデータからどれを使えば自分の考えの根拠になるかを考えてデータを選ぶ必要が出てくるため、生徒には、データを目的に応じて選択する力が身につくと考えます。

■おわりに

本単元はデータベースを活用した内容となっており、実際にデータを眺める中で課題や原因を発見する生徒の様子には、受け身ではなく主体的な活動を通じて能動的に学ぶ姿があり、正しくアクティブラーニングと言える状態になっているように思いました。また、社会の課題を、感覚ではなく実際のデータとして根拠をもって説明することで、論理的思考も培われると考えます。加えて、自身の意見を述べる際にも、根拠としてデータを示すことで説得力が増すということを実感できるでしょう。

データベースは膨大です。だからこそ用途や学習範囲、生徒の関心や理解度に応じて効果的にアプローチができます。国語に限らず、あらゆる教科の学習手段としてデータベースを活用することは、とても有効だと感じています。



学校訪問レポート

思いを伝えるために表現を磨く

(取材・編集部)

【訪問校】 高崎商科大学附属高等学校 (群馬県)
【クラス】 普通科1年1組
【日時】 2023年3月14日
【授業者】 神戸沙織先生
 平松和旗さん (イースト株式会社)

■本授業について

本授業は、生徒たちに国語辞典を活用してもらうことを目的として、高崎商科大学附属高等学校の神戸沙織先生と、辞書アプリ「DONGR」などのサービスを展開するイースト株式会社が共同で行ったものです。

授業づくりや資料の準備は、神戸先生とイーストの平松和旗さんが相談しながら行い、まず、神戸先生が複数のクラスで実践しました。

編集部が取材をした日は、イーストの出張授業ということで、主に平松さんが進行し、場面にに応じて神戸先生が解説するという形式で行われました。なお、平松さんは小学校の教員経験があるとのこと。

■授業のねらい

神戸先生によると、生徒たちは、文章を書くことへの抵抗感はないが、書いたものを推敲しようという意識が薄いとのことでした。また、ふだん学級日誌の所感欄などで、生徒たちが「〜を頑張りたいです」「〜ができてよかったです」など幼い表現を使うことが気になるというお話でした。

そこで今回の授業では、「作品」(文章)を書き、国語辞典を活用したりほかの人の意見を取り入れたりしながら推敲を行い、自分の思いを相手に伝えるための表現や語彙を広げることが目指しました。生徒たちに自分の書いたものに愛着を持ってもらい、推敲によってよりよく「作品」と呼ばれていました。

■授業の流れ (2時間)

時間	生徒の学習活動	●指導上の留意点 □評価
【第1時】 アイス ブレイク 5分	1. 授業者の自己紹介、クイズ	●柔軟な表現を引き出すため、リラックスした雰囲気を高める。
導入 20分	2. 同じ場面や物事に対する視点や文体の違いを取り上げ、学習の見直しをもつ。 ≪例1≫三苦選手の1ミリの感動を話題とするSNSの表現 ≪例2≫『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら』(神田桂・菊地良、2017、宝島社)	●≪例1≫では、視点や文体の違いを意識付けるため、どの表現が投稿者の感動をうまく伝えていると思うかを挙手させ、簡単に理由を聞く。 ●≪例2≫では、本時の辞書活用の見直しを共有するため、ヒントカード(P.43左上図)を提示して「悲しむ」の類語を『明鏡国語辞典』で調べ、適切な語を考えさせ、共有する。
本時のめあて：国語辞典や読み手の反応を生かして、思いを伝える言葉や表現を広げよう。		
展開1 25分	3. 生徒が撮影した写真を題材に、心が動いた瞬間であることを伝える文章を書き上げる。	●次の推敲の活動に入れるよう、まずは書き上げることを目標とするよう伝える。
【第2時】 展開2 25分	4. 国語辞典や読み手の反応を活かして、文章を推敲する。(4人グループ) ①国語辞典を使った推敲(10分) 参考：『明鏡国語辞典 第三版』の「品格」欄(大人の言葉遣いに留意)と「コラム」(類語に留意) ②グループの読み合いによる推敲(15分)	●「分からないところを質問する」「良いところを具体的に伝える」「よりよい表現に改善できる点を具体的に伝える」の3つを交流の重点とする。 ●もともとの文章は消さずに、ワークシートの右半分に加筆や語句の見直しの跡が残るように書く。 □国語辞典や読み手の反応を生かして、表現や語句を吟味する活動を通じて、言葉に対する感覚を高めている。(ワークシート下欄、振り返り)
展開3 15分	5. 文章と写真を共有し、友達の作品を批評してコメントを付ける。	●出席番号が前後の友達には必ずコメントを付けるよう伝える。
振り返り 10分	6. 学習感想を書く。	●「国語辞典の使いどころ」「語句を磨くこと」に関わる生徒の学習感想を共有する。 □国語辞典や読み手の反応を生かして、表現や語句を吟味する活動を通じて、言葉に対する感覚を高めている。(ワークシート下欄、振り返り)

■授業見学記

①複数の文章を読んで、違いに気づく

授業はまず、SNSの投稿など同じ話題について書かれた複数の文章を読み比べ、どの文章が一番印象に残るかを発表し合うことから始まりました。同じ話題でも書き手によって表現、文体、視点に違いがあることに気づき、自分で文章を書くときにもそれらを意識するきっかけになったのではないかと思います。

②作品を書く

さて、いよいよ「作品」を書きはじめます。題は、「心が動いた瞬間」。生徒にはあらかじめ書きたい「一瞬」の写真を用意し、ワークシート（下段）の右上に貼付するように指示してあります。字数の指定はありませんが、二〇〇〜三〇〇字程度の分量で、一五分で書き上げることが目標にしました。

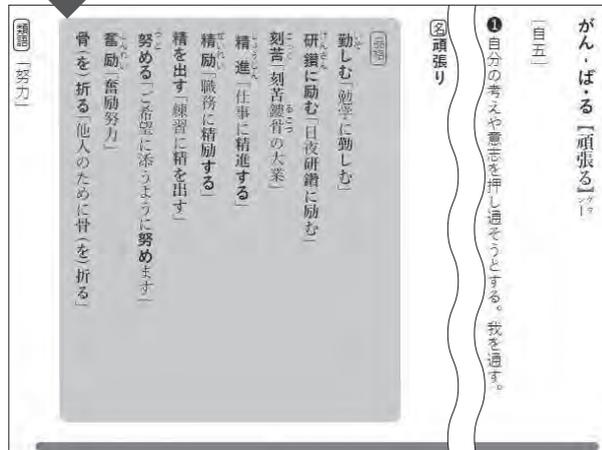
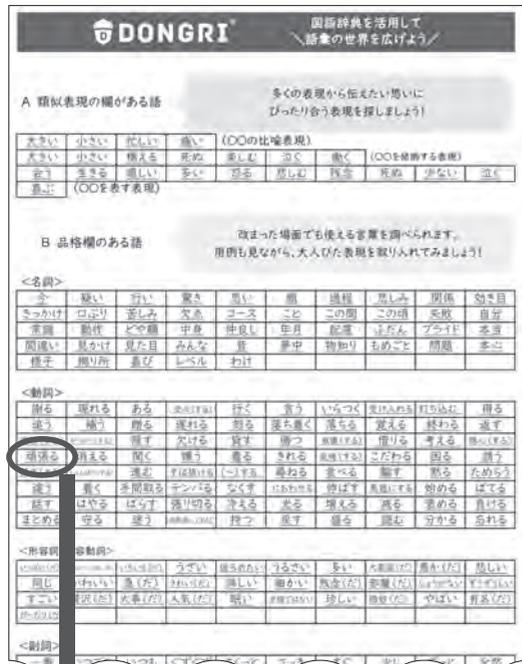
神戸先生や平松さん、そして授業を参観していた先生方が、「振り返ってどう思ったの?」「それを書いてみたら?」などと生徒たちに声をかけ、生徒たちもそれに応えながら書き進めていきます。

一五分では時間が足りない生徒もいましたが、約二分後には、すべての生徒が作品を書き上げました。

③『明鏡国語辞典』を使って推敲する

『明鏡国語辞典 第三版』には、ふだん使っている言葉から改まった言葉を調べられる「品格」欄や、類語表現を紹介するコラムを掲載しています。

今回の授業では、辞書アプリ「DONGRI」を使って、「明鏡」の「品格」欄やコラムを引きながら、文章の推敲を行いました。「品格」欄やコラムは数が多いため、厳選して一覧にした「ヒントカード」（左図上）をPD



Web版のDONGRIでは、辞書の各項目のURLをコピーできる。それを使って「ヒントカード」(上)を作成した。ヒントカードで調べたい語をタップすると、品格欄や類語コラムが表示される(下)。

Fで作成し、各語から『明鏡』へのリンク(左図下)を張って辞書をスムーズに引けるようにしました。生徒たちは、このヒントカードを参考にしながら、自分の作品に言い換えた方がよい言葉がないかを確認します。そして『明鏡』の「品格」欄やコラムを参照して、言い換えるべきかどうかを検討しました。



作品を書くためのワークシート(生徒作品)

④グループで推敲する

「DONGRI」の『明鏡』を使って自分の作品を推敲した後は、四人ごとのグループで互いの作品を読み、推敲コメントを書きます。推敲のポイントは、

- ・わからないところは質問する
- ・よいところを具体的に伝える
- ・よりよい表現に改善できる点を具体的に伝えるの三点です。

グループ推敲の後は、もらったコメントを読んで、ほかの人の意見を自分の作品に反映します。指摘を受けて表現を変える生徒もいれば、自分がこの表現を選んだのには理由があると言ってそのままにする生徒もいました。

⑤作品を互いに批評する

③④の二種類の推敲を経て、ついに、それぞれの作品が完成しました！ 完成した作品を互いに読んでコメントを書きます。グループの枠にとらわれず、誰の作品を読んでも構いませんが、出席番号が前後の人には必ずコメントを残すよう指示がありました。

どの生徒も、熱心に作品を読み、熱心にコメントを書いています。コメントのほかに、「○○さんの文章、すごくよかった」と直接、声をかけている生徒もいました。

■先生方から

授業後、神戸先生、平松さん、そして授業を参観していた先生方にお話を伺うことができました。

- ・書きたい、表現したいという生徒の思いを引き出せた。楽しみながら、生涯使える力を身につけるきっかけを示せたと思う。(神戸先生)
- ・文章の題材を固定せずに、生徒が自分で選んだ写真について書かせたのがよかった。書きたいと思える題材を書くことが、表現を工夫する意欲につながったと思う。恥ずかしがる生徒がいるかと心配したが、そのようなこともなかった。(平松さん)
- ・生徒同士でのグループ推敲は、褒め合うだけではなくきちんと推敲になっていた。(参観の先生)
- ・推敲では、調べた言い換えの中からTPOに応じて適切な言葉を選び取る力の醸成も必要だと感じた。(参観の先生)

授業では生徒たちが生き生きと書き、推敲を進める姿が印象に残りました。国語辞典を意味調べだけでなく、「書くこと」で活用することは、新たな語彙を広げるきっかけにもなると感じました。

⑥学習の感想を書く

最後に、生徒たちに学習の感想を書いてもらいました。その一部をご紹介します。

- ・辞書を使ったり、友達の見解を聞いて言葉を選んだりすることにより、自分が伝えたいことに近い表現になり、そのときの思いや様子を鮮明に伝えることができました。
- ・少し言い方を変えるだけで、より洗練された文章になり、言葉の力はすごいと思った。
- ・辞書を引きくことで言葉の世界が広がる楽しさがあった。
- ・語彙を増やすことで自分を理解してもらうことができたり、逆に、自分の想いを言葉として表すことで自分の感性を高めたりすることができた。
- ・普段の言葉の量を増やして、様々な表現のなかからピッタリのものをみつけたと思います。

平松さんから「国語辞典は意味調べのときだけではなく、表現を豊かにするときにも活用してほしい」、神戸先生から「言葉をきちんと選んで自分の思いを相手に伝えることは、人間関係を円滑にするのにも役立つ」というお話があり、本授業は締めくくられました。

今回の授業で使ったアプリ・国語辞典

明鏡国語辞典 第三版



北原保雄 [編]
B6判・1,922頁・2色刷
定価=本体 3,300円 (税込)

- 言葉の正しい使い方がわかる。
- 普段使いの言葉から、小論文・面接など改まった場面でも使える言葉を調べられる【品格】欄。
- 言葉の使い方や類表現がわかる充実のコラム。
- 誤用や気になる言葉からも引ける索引付き。



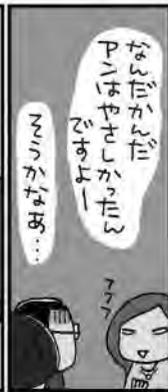
辞書アプリ DONGRI

・ネイティブアプリ版 (Windows/iOS/Android)
・Web版



- 必要な辞書と期間を選んで使用できるお得なサブスク型辞書アプリ。
- 生徒の利用状況や調べた語を先生が確認できるダッシュボード機能。
- 調べた語句に書き込みができる『メモ機能』。
- 国語・古語・漢和辞典は美しい縦書き。





森鷗外は、 赦せない小説家だろうか？



ひらの
平野 啓一郎

国語の教科書に掲載されている日本の近代文学の名作というのは、大抵、お勉強の対象でしかないが、森鷗外の「舞姫」は、その点、例外的で、SNS上でも、折々、激しい感情的な論争を巻き起こしている。——と言っても、肯定派は極少数であり、大半は、エリスに同情し、太田豊太郎赦すまじ、いや、そもそも実体験に基づいてこんな小説を書いた作者の鷗外こそ赦すまじ、という辛辣な批判である。

り細を穿って徹底追究した研究書であり、作中の、ほんのさりげない描写の一つ一つに至るまでの筆者の拘りは、瞠目すべきものである。

エリスのモデルであるエリーゼ・ヴィーゲルの実像は？ 鷗外との実際の恋愛と来日の顛末は？ そして、それがいかにフィクション化されたのか？

本書の読後、「舞姫」に立ち返った読者は、やはり、こう問うことであろう。

森鷗外は、本当にそんなに赦せない小説家だろうか？

鷗外の文学世界に向けて、一つの扉を開いてくれる好著である。

小説家。一九七五年、愛知県生まれ。福岡県出身。京都大学法学部卒業。主な著書に『日蝕』『ドーン』『ある男』『本心』『三島由紀夫論』など。

X(旧 Twitter) : https://twitter.com/hirano_k
公式サイト : <https://kihira.com/>

本誌118号
特別インタビューはこちら



六草いちか 著
すべてのナゾがこれで解けた!!
鷗外「舞姫」徹底解読



四六判・340頁
定価2860円(税込)

森鷗外「舞姫」のヒロイン・エリスのモデルを特定して脚光を浴びた著者による「舞姫」徹底解読本。ベルリン在住の地の利を生かした長年の調査成果と、豊富なビジュアル資料をもとに「舞姫」の世界をわかりやすく解説する。既に古典となりつつある原文に親しむために、総ルビ全文・現代語訳・語注を掲載。名作の聖地を巡るベルリン市街地図付。

大修館書店 学習辞典・国語便覧のご案内

探究学習・共通テストにも対応！



明鏡国語辞典 第三版

北原保雄〔編〕
B6判・1922ページ・二色刷
定価3,300円(税込)

大型版もあります
大きな文字 二色刷り
明鏡国語辞典
第三版

北原保雄〔編〕
B5判・1922ページ・二色刷
定価6,710円(税込)

新時代の国語力を強化！



ビジュアルカラー 国語便覧 改訂版

大修館書店編集部〔編〕
B5判・544ページ・オールカラー
定価990円(税込)



もっと知りたい！
を支える

トータルサポート 新国語便覧

大修館書店編集部〔編〕
A5判・608ページ・オールカラー
定価968円(税込)



明鏡国語辞典

第三版

北原保雄 [編]

B6判・1922ページ・二色刷
定価 3,300円 (税込)

特色2 新語から学習に役立つ語まで 最新の言葉を約 3500 語増補

- 時代を反映する語…SDGs / ワークライフバランス / 食品ロス / サブスク / キャッシュレス
- 新語…エモい / イケボ / バズる / ほぼほぼ
- 評論文キーワード…心身二元論 / サステナビリティ / 生物多様性 / ソーシャルメディア
- 教科書の定番教材の語…詩美 (檸檬) / フェータル (城の崎にて) / 妙境 (夢十夜)

特色3 元祖 誤用までわかる国語辞典 言葉の正しい使い方を解説

- 「アニメ好きの血がうづく」「今回だけは多めにしよう」「恩恵にあやかる」「部長から寸志を賜る」「有利に立つ」などつい使ってしまうがちな誤用や、「捜査が佳境を迎えている」「爪痕を残せるよう頑張りたい」など気になる表現をさらに増補して解説。
- 正しい言い方・使い方もわかる。

あやかかる ①肖る②「自五」幸せな人の影響を受けて同じように幸せになる。また、幸せを念じて幸せな人と同じ「心」をよめる。「彼の幸運は長生きの祖父に似ている。かかかか意の「あやかかる」と混同するのは誤り。可能あやかれる。名あやかり

すんーし ①寸志②「名」①わずかな志。少しの気持ち。②多く自分の気持ちをいう丁寧語として使う。③心ばかりの贈り物。さまよやかな謝礼。④自分の贈り物という丁寧語。多く謝礼や贈り物のし紙の上に書く。⑤「寸志」もらう側がいつかは不適切。⑥「歓迎会の幹事が部長から寸志を〇お心遣い」御厚志を賜りました

特色4 「恥ずかしくない大人の言葉遣い」をサポートする「品格」欄

- ふだんづかひの言葉から、改まった場面でも使える言葉を調べられる「品格」欄を新設。
- 品格語は用例とともに示し、どんな文脈で使える言葉なのかがわかる。

すんーし ①少し②「副」数量が少ないさま。また、程度がわずかであるさま。ちよつと。③酒を「飲む」「頭が「痛い」「もう」の辛抱だ」「彼は「前に帰った」「(言葉)も」と、「些」も。④少々「使い」

品格 ①「兄の方が「身長が高い」「些」が「一本不安」「一縷」「一の望み」「一掬」「一の涙」「一片」「一の侮いもない」「希少」「一価値」「極小」「一化」「僅少」「在庫」「心持ち」「一早めに出発してください」「些細」「一な違い」「些少」「一ですがお納めください」「若干」「一値段が「高い」「寸量」「一も変わらない」「寸分」「一の狂いもない」「霧」「一ほども疑わぬ」「微塵」「一も感じさせない」「や」「一異なる考え」「わずか」「一に成長している」「一「一は不安や寂しさに」「一縷」は希望や望みなど前向きなものに使う。

特色1 二色刷！ 探しやすく読みやすい紙面



- 項目が探しやすいのももちろん、**注意** **使い方** **書き方**など解説のマークがつけやすく、知りたい情報にすぐにたどり着ける。
- 解説の長い重要語は意味の近いグループごとに分けて「仕切り」を入れ、調べたい意味がどこに書かれているか探しやすい。
- 解説と用例で書体を変え、読みやすさを追求。

累計 60 万部超！
主体的な学びを支える最強の便覧

ビジュアルカラー 国語便覧 改訂版

大修館書店編集部 [編]
B5 判・544 ページ・オールカラー
定価 990 円 (税込)

●表紙イラスト・田中寛崇



特色 2 見やすく、わかりやすい資料が満載！

写真資料 1500 点以上、資料 600 点以上を収録した、
ビジュアルでわかりやすい国語資料集。

巻末付録「世界を知るためのテーマとキーワード」



5 大テーマ
「環境」「社会」
「情報・技術」
「国際」「生命・科学」
の論点を視覚的に解説
します。

デジタル資料
参照項目には
マーク付

- 音声
- 動画
- 資料

特色 3 いつでも、どこでも、まなびにアクセス！

好評の動画リンク集「まなび動画 Navi」がパワーアップ。
オリジナルコンテンツを含む、新感覚の国語資料をそろえました。

体験版は
こちらから

●別売「デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧」(クラウド版/アプリ版)もご用意！

検索機能を搭載。デジタル教科書とも連動して使えます。



特色 1 新しい時代に求められる国語力を強化！

実生活で役立つ国語の力を身につけるために、
さまざまな工夫を盛り込みました。

巻頭特集「未来につながる国語の力」

思い切り楽しみながら
想像する力・発信する力・共感する力をはぐくむ
教室が動き出す活動をご提案します。

生徒が主体的に
学ぶ力を支えます。



高校生に身近な事例をもとに、
「話す・聞く」「書く」「読む」
のポイントを丁寧に解説します。



トータルサポート 新国語便覧

大館書店編集部 [編]
A5判・608ページ・オールカラー
定価 968円 (税込)

言語文化・探究学習

古典から現代につながる伝統的な言語文化を視覚化。

書く力・語彙力

「書く力」と語彙力を養う「言葉の知識編」「表現編」が充実。



図表・データ

統計データやグラフの読み取り、レポート・小論文を書くためのページが充実。

便覧活用の幅がさらに広がる、充実のサポート！

生徒用
まなび動画
Navi

スマホ・タブレットなどで視聴できる関連動画や音声を紹介。便覧とあわせて使うことで、主体的な学びをナビゲートします。



指導用
準拠CD-ROM

本文テキストや画像、準拠問題データに加え、小論文指導・動画活用・探究型学習・新テスト対応のワークシートを収録。



BOOK REVIEW

いま、高校生に読んでほしい本



「最後の戦争がなにのためのものだったのか、もう思い出せません。」

広島原爆死没者慰霊碑に刻まれている「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しませんから」という碑文は多くの方の記憶に刻まれているだろう。しかし地球上から争いが絶えたことはない。ロシアとウクライナしかり、この国も戦争に向かおうとする不穏な空気を感じざるをえないのだ。「戦争と平和」は人類普遍のテーマとして現在進行形のテーマなのである。画文集である本書は第一二次世界大戦が起きた直後の世界が舞台である。徹底的に破壊された文明社会。美しい森林も

ジェームズ・サーバー著／村上春樹訳

『世界で最後の花 絵のついた寓話』(ポプラ社、二〇一三年)

平和を希求するメッセージが雄弁に伝わるこの一冊は、地球で暮らす誰もが幸せな未来を生きるための最良のバイブルだ！

うちだ たけし
田内 剛
ブックジャーナリスト。約二〇年の書店員勤務を経て、二〇一〇年よりフリーに。NPO本屋大賞実行委員理事。

大いなる大地もすべてが無に帰してしまつた。そんなある日、一組の男女が地上に唯一残つた一輪の花を見つけて心をこめて育て始める。そして愛し合い、子どもを産み育てる二人。まさにアダムとイブの世界である。しかし幸せで平穏だったはずの日常から、またもや憎しみと狂気が生まれてしまう。なぜ滅びの道に進んでしまうのか、本書にはその様子が生々しく描かれている。

著者は映画『虹を掴む男』の原作者としても知られているアメリカの画家であり文筆家だ。一人娘のローズマリーに捧げられた本書は一九三九年一月に刊行された。それはナチス・ドイツ軍がポーランドに進行して第二次世界大戦が勃発した二か月後のことであつた。それから

長い年月が過ぎ去っているが、世界は、そして人類はいつたいい何がどう変化したのであろうか。

この世界的な名著の復刊の翻訳が村上春樹であることにも意味がある。日本を代表する文学者の感性と解釈もまた、次の世代へと伝えるべき価値があるはずだ。世のすべてを失わせてしまう惨禍、目を覆うような残酷な悲劇、虚しい戦争の記憶は後世に語り継がねばならない。心をこめて咲かせた花は決して絶やしてはならないのだ。

真正面から戦争を考え、平和を希求するメッセージが雄弁に伝わる本書は、明るい未来を生きるための貴重なバイブル。読まれるほどに間違いなく僕らは、本当の幸せをつかむことができるはずだ。

詩の教室へようこそ

和合亮一

第七回 種まく人よ

福島県立福島北高等学校教諭。第一詩集にて、中原中也賞、第四詩集にて晩翠賞受賞。二〇一一年の東日本大震災で被災した際、Twitterで「詩の礎」を発表し話題に。詩集となり、フランスにて詩集賞受賞（日本人初）。二〇一九年、詩集「QQ」で萩原朔太郎賞受賞。校歌、合唱曲作詞多数。

＊日本語の音楽性

詩を書き続けてきて、さまざまな出会いをいただく機会が多いことを、とても幸運に思っています。今回は、私なりの音楽との出会いについてお話をさせていただきます。

そもそも私は幼い頃から音楽を聴くのが大好きでした。いつしかそれに関わり続けるような人生を送りたいと思うようになりました。しかし、ただ単に好きなかだけであり、音楽の素養や経験は全くなく過ごしてまいりました。例えば、ギターでもピアノでもドラムでもできれば、と何度も思ってきましたし、実際に楽器の練習を試みたこともありました。しかし、いつしか断念してしまいました。

そのような時に、萩原朔太郎の次の言葉

昨年、書かせていただきました、福島県立会津農林高等学校の校歌を、少しだけご紹介いたします。

種まく人よ
野へ空へ
ハミングたかく
かがやく林
いのちを育て
星をみあげて
水のささやき
みちびく雲に
歌おう 友と
いちめんの花
まなざしに風
会津のありか
夜明けに
のぞむ
光の人に
種まく人に

に出会ったのです。「詩は何より音楽でなければならぬ」。朔太郎は音楽をこよなく愛し、マンドリンという楽器を好んで演奏していたことでもよく知られています。ならば私も偉大な詩人の真似をして、さっそくマンドリンでも…。いや断念してからはその気が起きませんでした。その後、自然と詩を書くことに心が向かっていったのも、やはり日本語が本来もっている、音楽性に心惹かれたからにほかなりません。

日本人は古来から、いわゆる定型のもたらず音韻とリズムに親しんで、朗詠してきたという歴史を有しています。このことから、日本語の音楽性の存在ははっきりしていると言えるでしょう。

時折、授業で百人一首大会をやります。私が読み手となり、自己流に読み上げて、

校歌の一番を紹介させていただきました。それぞれ歴史のある、福島県立会津農林高校と福島県立耶麻農業高校が統合して、新設高校のスタートとなりました。

校歌を作る際は、まずは取材を重ねることとしています。校舎やグラウンド、そして生徒たちの登校の経路の風景や、近くにある公園などを歩きます。言葉のスケッチのようなものです。先生方や生徒たち、地域の商店街の方々にもお話をうかがいます。そうしているうちに、ヒントのようなものが必ず見えてきます。自宅に戻り、ノートに思いつく言葉を書き出してみます。とにかく自由に、歌になりそうなフレーズが見えてくるまで、並べていきます。撮ってきた写真を見直したり、場合によっては、うかがったお話を録音したものを聞き直してみたりもします。

＊時間の波を超えていく強さ

ここで少し、私なりのコツのようなものを述べますと、まずは時折声に出してみ、気持ちのよい単語やフレーズを探ってみます。「気持ちのよい」と述べましたが、簡単

生徒たちと夢中になるという時間が流れます。ずっと声に出していくうちに、名歌がもっている音楽性というものに、うっとりとしている自分に気づかれます。日本語と音楽性とは親密なつながりをもっているのだと、声に出しながら実感いたします。

＊言葉のスケッチ

詩を書き続けていくうちに、校歌や合唱曲、市歌などの作詞の機会をいただくようになりました。それは初めからうまくいったというものではありません。私の詩集をお読みくださっていた作曲家の新実徳英先生にアドバイスをいただいたながら、少しずつ作詞の方法を身につけていきました。かれこれ二〇年ほど歌詞を作り続けておりますが、書くほどに奥の深さを感じます。

に言えば声に出しやすい、響きのよさももっているものと言え、よろしいのでしょうか。なかなか説明しにくいのですが、自作の詩を朗読をするという活動をずっとやってきているので、自分が声にしてみたいという言葉を見つけたのが、苦にならないところがあります。

そして、それらを三・五・七の奇数の音に、あてはめてみます。このほうが、歌いやすく、覚えやすい印象があり、校歌や市歌などの公の歌にはふさわしい感じがあります。あくまでも体験談に過ぎませんが、こうした目安のようなものがあると、まとめやすいのは事実です。

特に校歌は数十年、歌われ続けていきます。作詞者として、長い歳月を越えていつて、ずっと愛され続けてほしいという思いを込めています。和歌・短歌や俳句の定型の音韻とリズムを、日本人が千数百年近くも愛し続けていることからわかるように、そうした時間の波を超えていく強さが奇数の音という器に宿っているように、長年書き続けてきて思います。

＊言葉のアンテナを立てて

私は短歌や俳句が好きで、時折短歌を作ることもありましたが、その経験が生きていくようなのです。言葉の素描をしているうちに、作品の基調を成すフレーズを探していることを意識するようになります。

例えば、ある歌を思い出す折には、必ず印象深いものを口ずさむと思いますが、そうしたものを与える、作品の柱となるような一行。これはなかなか見つからないものですし、それが定まると、磁石に引かれるように書き出した言葉たちが不思議とそこに集まっていき、書こうとしている歌の景色がさつと見えてくるような気がします。

先ほどの校歌の柱のフレーズは「種まく人よ」です。まず、会津農林高等学校の校舎や農場を巡った折に、農業実習をしている生徒たちの熱心な姿が思い浮かびました。私は初任地が南相馬市にある福島県立相馬農業高校でしたので、生徒たちの顔を思い浮かべたりして、何だかとても懐かしくなりました。

そして、その数日後に、たまたまなので

楽譜を開けば／野原に／風が吹く

これは、「楽譜を開けば野原に風が吹く」(作曲 信長貴宣)の一部です。とても長いタイトルだと思われたかもしれませんが、国内で歌われている合唱曲の中でも、珍しい長さのタイトルかもしれません。

校歌では三・五・七などの奇数の音数で言葉を選んでみると述べましたが、合唱曲はそうした枠から出た、もっと自由なものとして考えます。

この曲は、合唱をする方々へのエールの意味を込めて作詞しました。楽譜と野原のイメージを重ね合わせてみて、歌い手が楽譜を開いて歌おうとする様子と、野原を自由奔放にかけめぐる姿とを重ねてみました。生き生きとした表情で合唱に取り組んでいる合唱部の生徒さんの姿を想像しながら、想いを歌に込めてみたつもりです。

私は十数年ほど前に、「しずおか連詩の会」というイベントに参加させていただいたことがあります。これは詩人の大岡信さんが提唱した、連歌や連句ならぬ、連詩の理念に基づいて、毎年、静岡で開催されて

すが、あのフランスの画家のミレーの名画「種をまく人」と、山梨県立美術館で出会いました。明け方の情景のほの暗い画布の真ん中で、種をまいている印象的な姿が描かれていました。

それを見つめた瞬間に浮かんだのが「種まく人よ」という呼びかけでした。名画の力ももちろんありますが、言葉のスケッチをしているうちに心にアンテナが立って、絵を見た瞬間に大きく反応したのだと思います。目に入った瞬間に大いなるひらめきが生まれ、新しい歌への目覚めを授けていただいたような気がいたしました。

作詞に定石はありません。ほとんど偶然の産物であるインスピレーションを確実に呼び込むことはとても難しいことです。しかし、ある程度、それを待たするための準備はできると思います。書き方は幾通りもありますが、こんなふうに取り出した言葉をあたかも種をまくようにメモ帳の中に入れておくと、自然と口ずさみたくなるフレーズが吹きのように出て生まれたり、出会ったりすることを何度も経験してきました。ここまで述べてきたように、音数を意識した

いるものです。そこでいくつかの連詩の決まりを学ばせていただきましたが、一つ印象的だったのは、イメージの後戻りをしない、というルールでした。

例えば、朝目覚めて、洗顔して着替えをして、玄関から外に出て、学校へと向かう、といったようなイメージがあったとします。ところが、目覚めてすぐに布団に潜ったり、一度着た服から別のものに着替えたり、玄関から出て忘れ物に気づいて一度戻ったり、といったことを日常ではいたしません。しかし、連詩ではそのような後戻りをしない……ということだ、と。

何かしらアクションを起こしたら、それを後ろ向きに戻さないということを、大岡さんは決まりとして提唱されていたそうです。実際に、五人の詩人たちと二泊三日のスケジュールですつと連詩を書き続けて、それをしないということが、生き生きとした何かを作品に与えることにつながると、実作の現場でわかりました。

わたしは合唱曲の作詞をたくさんさせていただき、言うなれば一人連詩のような気持ちで、後戻りをしないようにして書いて

言葉でアンテナを立てている状態こそが、柱のフレーズと出会う確率を高めていきます。

＊後戻りをしないように

合唱曲の作詞について、お話しさせていただきます。

楽譜を開けば／野原に風が吹く
はだしになり／足のうらの

音符を蹴って／歌う

鳥と光と／汗　ひとつぶ／見つけた

風の中に／真つ赤な風船

ほんとうは／風ではないのです

雲からの／ささやき

かなたまで／飛んでいけ

わたしたち／まるごとの／息吹き

(中略)

見上げよ／一番星だ

わたしと／きみだ

いる自分に、ふと気がついたことがありました。

それは歌い手のみなさんに、いつも生きる力を込めて、精一杯、元気に取り組んでいるってほしいという願いが前提にあるからです。

サビの部分の「見あげよ／一番星だ／わたしと／きみだ」には、仲間との連携の想いを込めています。一つの星を一人で見あげるのではなく、歌う全員で見あげてほしい。

校歌も合唱曲も、みんなで口ずさむものです。その音楽活動に言葉の担当者として参加させていただきながら、音楽への憧れをこれからも宿し続けていきたいと願っています。

詩の作品大募集!

本連載では、高校生の詩の作品を募集いたします。応募作品の中から和合先生に選んでいただいたものを誌面にてご紹介していきます。奮って応募ください! (募集要項は64頁)

物語にメリハリを

紫式部にファンレターを書こう⑨

おおくら ひろし
 大倉浩
 筑波大学教授

前回から係助詞「ぞ」「なむ」「こそ」についてお話ししていますが、改めてこれらの係助詞の働き、「強調」について考えてみましょう。

まず、「強調」を、話し手（書き手）が文の中で聞き手（読み手）に特に伝えたい語句を際立たせる働き、と規定しておきます。すると、

見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける

（古今集、春上、素性法師）

この和歌では、秋の錦（紅葉）ばかりでなく、春の柳の新緑や満開の桜に彩られた都そのものが「春の錦」であった、という発見を作者は強調して、「都ぞ」と係助詞を用いていると説明できます。

三十一文字と短い和歌（韻文）の中でも特にこの部分、というところを蛍光ペンでマークするように、係

助詞「ぞ」が効果的に用いられています。ある程度の長さをもった散文、例えば物語では、係助詞はどのように用いられているでしょうか。「物語の祖」と言われる『竹取物語』の冒頭部分を見てみます。

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむ言ひける。その竹の中に、元光る竹なむ一すぢありける。怪しがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。

いきなり係助詞で強調しているわけではなく、まず読み手に登場人物の生業を紹介したうえで、第三文「さてその名は：」、「第四文「なんと光る竹が！」と、物語のヤマ場にさしかかると係助詞「なむ」が現れます。その後はしばらく係助詞は使用されず、姫を授かった

翁たちの喜びと姫の成長が語られ、

秋田、なよ竹のかぐや姫と付けつ。このほど、

三日、打ち上げ遊ぶ。よろづの遊びをぞしける。と、冒頭の段の終わり、命名のエピソードで締めくくるところに「ぞ」が現れます。

係助詞については、その結びの部分を見つけることばかりに気を取られて、広く文章の中での位置など、注意したことはなかったのではないのでしょうか。しかし、こうした視点で係助詞を探してみると、他の古文の文章でも、会話文にも使われていますが、地の文では、登場人物が和歌を詠む場面など物語のヤマ場（『伊勢物語』など）や、章段の最後などエピソードの切れ目（『今昔物語集』の「：となむ語り伝へたる」とや。）という結びの表現もその例）に、多く係助詞が使われていることに気づくはず。現代でも、落語家や講談師、役者さんのナレーションなど、上手な語りを聞いていると、滑舌はもちろんですが、声の大きさ・速度・抑揚をコントロールして、その語りにメリハリをつけていることがわかります。

「係り結び」は、聞き手を意識した「！」や「？」の気持ちの表現であると以前の回で述べましたが、物語

の場合、古文では、強調の係助詞を使って語句や文を際立たせて前後の文や語句と差をつけることで、文章全体のメリハリやまとまりを生み出していることがわかります。一文の「係り」と「結び」だけで「係り結び」の働きは終わりではないのです。

こうした文章のメリハリやまとまりは、現代語では主として文頭の接続詞や副詞、書き言葉では段落分けによって示されています。（このコラムもいくつかの段落分けと、段落中の「さて、しかし、また、つまり、…」などの接続詞でメリハリをつけているつもりです。）

考えてみると、古典文法では「て・ば・が」など接続助詞がよく問題にされますが、接続詞についてはあまり触れることがありません。それは接続詞自体が当時の日本語の中で発達途上でもあったからなのですが、ここで述べたような古文の文章における係助詞の働きと、日本語の接続詞の発達との関連については、小松英雄先生の卓見（『日本語の歴史』二〇〇一年、笠間書院）がありますので、ご一読を強くお勧めします。

古文では、聞き手（読み手）に向けて物語ることと「係り結び」には、深い関係があったのです。



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>

イエスでもノーでも「大丈夫!」って大丈夫?

——レストランでの会話——

お客「サプライズで、ケーキの中に婚約指輪を入れられますか?」

店長「大丈夫①①です。一緒に婚姻届も入れておきましょうか?」

お客「大丈夫②②です。彼女の写真をお見せしましょうか?」

店長「大丈夫③③です。プロポーズは受けてもらえそうですか?」

お客「大丈夫④④です。……たぶん」

* ①④はイエス、②③はノーの意味です。肯定(承諾)と否定(拒否)が同じ言い方なんて、大丈夫でしょうか?

「大丈夫」は、元々は強く勇ましい男性を指し、

「作りますか」「温めますか」を「持っているとお得なことがあるんですよ」「温かくしたほうがおいしく召し上がれるんですけど」と気遣いを示してくれたものと捉え、そんな気を使ってくれなくても問題ないと相手を納得させるような気持ちがかめられているのでしょう。

肯定の「大丈夫」には、「任せていいだろうか」「プロポーズは断られたりしないだろうか」という心配を払拭して、間違いない、確実であるという強調する意味合いがありました。相手の懸念を無用のものとするという点では、通じるころがあります。

* 「大丈夫」という返事は、諾否や否定肯定の意思表示というより、その話題・事柄について相手が抱いている心配や気遣いを打ち消して安心させる、一種の配慮表現と考えることもできます。

「試験準備は?」

——「大丈夫」——

「塾に行ったら?」

——「大丈夫」——

せきね けんいち
●日本新聞協会用語専門委員、元読売新聞東京本社編集委員。大東文化大学非常勤講師。著書に『なぜなに日本語』(三省堂)、『ちびまる子ちゃんの敬語教室』(集英社)、『文章がフツフとうまくなる』(つとみ)、『ことばの徳』(品格語辞典)、『大塚書店』など。『明鏡国語辞典 第三版』編集・執筆協力者。

そういう人のようにすっかりしている様子を表すようになりました。「任せてくれて大丈夫」など、「問題ない」「安心していい」という判断を示すときにも用いられます。「大丈夫、きつとプロポーズを受けてもらえるよ」といった強い確信を示す副詞の用法もあり、「大丈夫」だけで肯定(承諾)の返事に使うのに違和感はありません。

* ところが最近、スーパーやコンビニなどで「ポイントカードを作りますか?」「お弁当は温めますか?」と尋ねられて、「いいえ」と断る代わりに「大丈夫です」と答えるのをよく聞きます。こうした新しい使い方を踏まえ、『明鏡国語辞典』は第二版から、「相手の勧誘などを遠回しに拒否する語」という語釈を加えました。

最初の「大丈夫」は、準備が疎かになつていかという心配を打ち消す意味、後者は、成績を上げるには塾に行った方がいいのではないかとという気遣いを打ち消す意味で、どちらも相手への配慮に基づいた表現と言えるでしょう。

* ただし、その心配や気遣いの在りかが共有されていないと、誤解されたり、通じにくかったりするという事態も生まれます。新刊の『無礼語辞典』では、『別案を提示してよろしいでしょうか。費用はアップします』『大丈夫です』という例文を挙げました。

費用が上がったら受け入れてくれないのではいかという心配を打ち消す「大丈夫」ならイエス、費用はともかくよい案を提示しなければという気遣いを打ち消す「大丈夫」ならノーと告げたことになるでしょうか。双方の思惑がずれていると、配慮したつもりが相手の意向を無視する無礼極まりない返事とも受け取られそうです。大事な用件であれば、諾否を明確に示す一言を付け加えることが何よりの配慮かもしれません。

第九回 王羲之墓

(浙江省嵊州市)

文と写真

平井 徹

慶應義塾大学講師(中国文学)



◆DATA
 人物：王羲之(303?～361?)。東晋の貴族。『晋書』巻80に伝が、明代に編集された『王右軍集』2巻がある。
 墓所：浙江省嵊州市金庭郷瀑布山南麓。寧波から75キロ、嵊州市街から25キロ。甬金高速の嵊州インターからすぐ。杭州・紹興方面からでも、寧波方面からでもアクセスはよい。
 アクセス：東京から ▶ →3h 杭州 ▶ →5h 嵊州
 あわせて行きたい：蘭亭(浙江省紹興市)、王羲之故居(山東省臨沂市)、王羲之故居(山東省臨沂市)、王羲之故居(山東省臨沂市)

王羲之(三〇三?～三六一?)。字は逸少。晋代の大貴族である「瑯琊王氏」(瑯琊は現在の山東省臨沂市)の出身。二十代から官途に就き、最終的に三品官である右軍將軍兼会稽内史(内史とは王国の領する郡の長官)に至ったことから、「王右軍」と呼ばれる。詩文に巧みで(現存する詩三篇、文章二十七篇)、熱心な道教(天師道)信徒でもあり、多様な側面を持った人物であったが、「世を挙げて惟だ其の書を知るのみにして、翻つて能を以て自ら蔽ふなり」(顔之推『顔氏家訓』雜藝篇)と評されたように、早くから専ら書家としての名声が高まり、「書聖」と称えられている。彼の書を愛好した唐の太宗は「尽善尽美」(『晋書』)と最高級の賛辞を贈り、臨終の際に自らの陵墓「昭陵」に、

「蘭亭序」の真蹟を埋葬するよう勅命を下したことはよく知られている。
 王羲之の任地「会稽山陰」は現在の浙江省紹興市で、東晋王朝の都建康(現在の江蘇省南京市)からも近く、行政上の要地であった。永和九年(三五三)、かの有名な「蘭亭」での集いも、彼の主催により同地で開かれている。その二年後に致仕し、隱棲の地として選んだ嵊州(在世当時の地名は剡県)で、彼はその生涯を終えた。現在の嵊州市は紹興市が所管する県級市であり、北に省都杭州や紹興、東に寧波、西に金華を控え、「越劇」(伝統演劇の一つで、女性のみで上演される)の発祥地でもある。
 王羲之墓は、嵊州市街の東郊、金庭郷瀑布山南麓にある。

風光明媚で、道教の理想郷である「洞天福地」と称されたこの地に一家とともに引き籠もり、宅地内に道観(道教寺院)を建立して仙道修行に勤しみ、風雅を友に暮らした晩年の七年間は、彼にとって幸せなひとときであったに違いない。現在この一帯は、「王羲之故居旅游区 書聖園」として整備され、観光地化している。王羲之墓に向かうアプローチの入口には、清道光九年(一八四九)の銘がある「晋王右軍墓道」と記した石坊が人々を迎える。参道の左右には、金庭観、王右軍祠、碑廊など十余の建築物があるが、いずれも文化大革命中に破壊されて荒廃し、一九八四年以降に再建されたもの。突きあたりの墓域周辺は、風情ある落ち着いたたざまい。墓碑には「晋王右軍墓」、裏には明弘治十五年(一五〇二)の年号が刻まれており、今なお、王羲之五十数代の子孫が墓を守っているとのことである。

一九九七年、省重点文物保护单位に認定。なお、ここから一キロの華堂古村には、明代に建てられた王氏宗祠もある。王羲之は、生卒年にも生地にも諸説あり、著名なわりに不明な点も多い。若い頃から将来を嘱望され、「骨鯁(硬骨漢の意)を以て称せられ」(『晋書』)、個性的なエピソードにも事欠かない。大貴族らしい洒脱ぶりを發揮する一方で、不羈奔放な一面は歳を追って強まり、常識家の人間との間には、まま軋轢を生じた。彼の悲願は、異民族の統治下となっていた華北の地の奪回であり、それを終生忘れることはなかった。芸術抬頭の機運が高まったこの時代、中国の芸術文化の骨格を形作った一人は、疑いなく王羲之である。その名品を賞美する時には、彼の生涯や文章の一字一字に託された内面性にも眼を向けたいものである。人生とその芸術とは、一貫したものがあつたのだから。



▲「晋王右軍墓道」と記した石坊



▲王羲之の信仰の場であった金庭観(再建)



▲参道の左手奥にある王右軍祠(再建)



▲今も子孫に大切に守られている王羲之墓(写真はいずれも2011年撮影)

石原千秋著

教科書の中の夏目漱石



四六判・並製・二五八ページ
定価 2420円(税込)

評者 井戸良典

高校国語教科書への最多の文章掲載を誇る国民作家・夏目漱石。本書は、漱石研究を現在まで牽引し、教科書編集にも携わった著者が、作品の新たな読み可能性、授業をする際のエッセンスや背景、歴史の変遷などに迫ったものである。

「ころ」 「夢十夜」といった「定番教材」から、「吾輩は猫である」「草枕」「三四郎」など、

教科書から姿を消したもので、全九作品について、具体的な学習設問も取り上げながら、切れ味鋭い分析が行われる。

「ころ」は、有り余る時間を持ったエリートに「青年期」特有の悩みを教えた教科書だった

「夢十夜」とは時間的には他界に行けるが、空間的には他界に行けない物語群だ」など、目から鱗の解説により、漱石作品の未知の面貌が露わになり、知的でスリリングな読書となること請け合いです。

「教材としての漱石文学」というユニークな視点から漱石作品に光を当てた本書は、文学や教育に関わる幅広い人々に必携の一冊となるだろう。

後藤淳一編著

はじめての漢詩作り入門



B5変型判・並製・八八ページ
定価 2310円(税込)

評者 堀田知恵

「まずは一首作ってみる」ことを目標に、練習問題を解きながら漢詩作りに必要な基本事項を学べる入門書である。「動詞の用法」「押韻平仄」などのトピックごとに簡潔な解説がなされ、それぞれに問題が用意されているという構成で、気負わず自然に漢詩創作の工程を体感できるようにになっている。

本書にまとめられている漢詩作りのための知識は、そのまま、漢詩を鑑賞する際にも役立つだろう。例えば杜甫の「岳陽楼に登る」は、詩題では「登」の字

を用いているのに、実際の詩の表現ではなぜ「今上岳陽楼」と「上」の字を用いているのか。また、「昔李白愛酒」のような漢文は、語順は適切なのに、漢詩の中で用いられるとなぜルール違反と

なってしまうのか。教科書に定番の作品も漢詩のルールを意識して改めて見てみると、一つの表現の意匠や作者の工夫がより実感できるに違いない。

国語科の先生に向けて授業での漢詩創作の実践案も収録されており、さまざまに活用できる一冊である。

関根健一著／大修館書店編集部編

無礼語辞典



四六判・並製・二五六ページ
定価 1980円(税込)

評者 星野 碧

ふだん何気なく使っている言葉が、失礼になっていることはないだろうか。「相変わらずお元氣そうですね」「お話に感心しました」「授業がやっと終わりました」――「相変わらず」「感心」「やっと」自体に失礼なニュアンスはないが、使う相手や場面によっては配慮の足りない失礼な表現となるだろう。

このような「無礼語」を取り上げて解説した辞典が本書だ。見出しは五十音順で、無礼になる際の例文となぜ無礼になるのかの解説を付す。言いかえ例や

複数の言葉の使い分けを図示した「無礼マップ」が掲載されている語もある。索引は五十音索引と分類一覧の二種類だ。

昨夏刊行された『言格語辞典』に続く、類語辞典シリーズの第二弾。普段使いの言葉から改まった場面で使える言葉が引ける『言格語辞典』とともに、言葉選びの参考となるはずだ。

中学生には、調べ学習などにもぜひ活用してほしい。「無礼」という観点から、言葉に興味をもつきっかけにもなるのではないかと思う。

神林博史著

知っておきたい！統計のオモテとウラ



四六判・並製・二〇〇ページ
定価 1980円(税込)

評者 八木 環

統計とうまくつき合うために

日々のさまざまな場面で目にし、触れているはずの「統計」。ビッグデータ時代の中で、その重要性は増しているが、「難しい」「数字は苦手」と感じている人も多いかもしれない。

本書は「統計学をきちんと勉強するのは大変そうだけど、統計の基本的なことや大事なことは最低限知っておきたい」という人にお薦めの書籍である。

統計の良い面（オモテ）と悪い面（ウラ）の両方に焦点を当て、統計を正しく理解し活用していくために欠かせない知識を

わかりやすく解説してくれる。

統計学の重要性や基礎的な統計数値を見る上で注意すべきことなどを、歴史的な事象や日々のエピソードにからめることで、イメージしやすくし、統計が身近な存在であることに気づかせてくれる。何より、数式がほとんど登場せず、語り口がゆるいため、身構えずに読み進めることが可能だ。

「数学が苦手」と言っただけで、著者だからこそその配慮と工夫が盛り込まれた一冊だろう。

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

📖 教育行政関係

- こども家庭庁発足 (4/1)
- 2023 年度全国学力・学習状況調査実施 (4/18)
- 令和4年度「教育課程実施状況調査」結果公表 (4/21)
- 2023年の子ども人口(推計) 1435万人。前年より30万人減少 (5/4)
- G7教育相会合で「富山・金沢宣言」を採択 (5/14)
- 文科省、令和6年度「大学入学者選抜実施要項」、令和7年度「大学入学者選抜実施大綱」発表 (6/2)
- LGBT 理解増進法公布・施行 (6/23)
- 初等中等教育段階における生成 AI 活用指針発表 (7/4)

📖 国語関係・時事

- 本屋大賞発表。『汝、星のごとく』 凧良ゆう (4/12)
- 英国のチャールズ国王が戴冠式 (5/6)
- 新型コロナウイルス感染症、5 類に移行 (5/8)
- G7 広島サミット開催 (5/19~21)
- 芥川賞・直木賞発表。芥川賞は市川沙央「ハンチバック」、直木賞は垣根涼介『極楽征夷大將軍』、永井紗耶子『木挽町のあだ討ち』 (7/19)

📖 こども家庭庁発足

4月1日、内閣府の外局として、こども家庭庁が発足した。子ども政策は厚生労働省、内閣府など複数の省庁にまたがっており「縦割り行政」の弊害が問題視されていた。厚生労働省子ども家庭局、内閣府子ども・子育て本部などを移管している。



📖 子ども人口、総人口中11.5%

総務省は5月4日、15歳未満の子ども推計人口(4月1日現在)を公表した。総数は

は前年より30万人少ない1435万人で、男子が735万人、女子が700万人。総人口に占める子どもの割合は11.5%と年々減少している。



📖 令和6年度「大学入学者選抜実施要項」および令和7年度「大学入学者選抜」に係る

大学入学者共通テスト実施大綱の発表
6月2日、文部科学省より令和6年度の大学入学者選抜試験の実施要項および、令和7年度の実施大綱が発表された。あわせて、令和7年から平成30年指導要領に基づ

く受験内容に大幅に変更になるため、令和7年度受験の実施大綱も公表された。なお、旧課程の学習者には旧課程の問題が用意される。



📖 生成 AI を巡る動き

「ChatGPT」など生成 AI の普及にともない、その活用に関する指針が相次いで公表されている。G7教育相会合で採択された「富山・金沢宣言」では、生成 AI と教育のあり方が議題となった。また、文部科学省からは時と同じくするように各学校段階での生成 AI に関するガイドラインが相次いで公表された。

なお、政府は「広島 AI プロセス」として生成 AI に関する国際的な行動指針案を年内に提示するために検討を進めている。「AI 戦略会議」で生成 AI の企業利用の指針を策定するなどの具体的対応も進んでいる。一方で、日本新聞協会等4団体は、8月17日、著作権保護の検討が不十分であるなどとして、生成 AI の利用促進に懸念を表明している。

研究会・展覧会だより

特別展「やまと絵——受け継がれる王朝の美」

〔会期〕2023年10月11日(水)~12月3日(日)

〔場所〕東京国立博物館 平成館特別展示室

展示室



日本近代文学会 2023年度秋季大会

〔日時〕2023年10月21日(土)・22日(日)

〔場所〕北海道大学



日本語学会 2023年度秋季大会

〔日時〕2023年10月28日(土)・29日(日)

〔場所〕オンライン



全国大学国語教育学会

〔日時〕2023年11月4日(土)・5日(日)

〔場所〕信州大学教育学部



全国高等学校国語教育研究会 第56回研究大会(山梨・東京大会)

〔日時〕2023年11月23日(木)・24日(金)

〔場所〕山梨県立文学館講堂(二日目)

の分科会は東京にて開催



日本漢字学会 第6回研究大会

〔日時〕2023年12月16日(土)・17日(日)

〔場所〕京都大学(オンラインとの併用開催)



この度、ご縁があり大修館へ入社し沖繩地区を担当させて頂くことになりました。私には小学4年になる娘がおります。先日、国語の授業を参観する機会がありました。子供たちは一人一台のタブレットを持ち、先生の出した課題に対し、インターネットで情報や画像を収集し、解答は電子黒板を使い発表。それから生徒同士で意見交換をする様子を見て、私の小学校時代と大きく違う授業の様子に驚くと共に、「学習指導要領が変わるということ」を実感しました。

日々変化する教育現場に居られる先生方のご躍進を少しでも支えられるよう、私も精進していく所存です。

九州支店 比嘉依理



秋刀魚のおいしい季節になりましたね。私は釣りが趣味で、この時期になると毎年秋刀魚や鯖を釣りに行きます。苦勞しようやく魚を釣り上げたときの嬉しさは何にも代え難く、そしてその魚の美味しさも格別です。

でも、実はそれよりも楽しみにしているものがあります。それは母からの手紙です。夜明け前に釣行に出発する私に、母が玄関ドアに手紙を貼っておいてくれるのです。「気をつけてね。魚釣れるといいね。」と母の綺麗な文字が並び、夜中の少し心細い私の心を温めてくれます。

何でも携帯で済んでしまうこの時代に、わざわざ手紙をしたためてくれる母を見て、私も周りの方々に真心を伝えられる自分でありたいと思っています。

東京支店 清水史華



「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」。秋が近づくとこの歌を思い出します。街に音があふれる現代では、音の代わりに、その手触りや温度に秋を感じます。小誌が皆様のお手元に届くころには、今年の猛暑も落ち着いているでしょうか。

▼近年、SNSに短歌の投稿が増えているようです。季節の移りや自然の美しさ、旅行の思い出や恋人とのデート、芸能ニュースや世界情勢。日常の小さな発見から世界を揺るがす社会問題まで、感じたことを三十一文字に整え、ハッシュタグをつけて発信する。ツールが紙と筆からスマホやパソコンに代わっても、リズムに乗せて想いを表現するということ短歌の本質は変わらないようです。▼デジタル全盛の現代においても、言葉の学びという国語の本質は変わらないのではないのでしょうか。本号では、ICTを取り入れた授業について、その効用や注意点、授業実践案を特集しました。本特集が先生方のICTを用いた授業づくりの一助となりましたら幸いです。(文)

詩の作品 大募集!

詩人の和合亮一先生による連載「詩の教室へようこそ」では、高校生による詩の創作作品を募集いたします。お寄せいただいた作品は、和合先生に選んでいただき、優れたものを連載の中でご紹介いたします。作品が掲載された方には、大修館オリジナルグッズをプレゼント!

下のQRコードから奮って応募ください。郵送も可。



国語教室 第120号
2023年10月15日発行

編集室 国語教室 編集室
発行人 鈴木 一 行
印刷所 広研印刷株式会社
発行所 株式会社 大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2290(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp/>